

## 基本計画書

基本計画								
事項	記入欄						備考	
計画の区分	学部の学科の設置							
フリガナ設置者	ガッコウホクシン トカイガクエン 学校法人 東海学園							
フリガナ大学の名称	トカイガクエンダガク 東海学園大学(Tokai Gakuen University)							
大学本部の位置	愛知県みよし市福谷町西ノ洞21番地233							
大学の目的	本学は「勤儉誠実」の信念と「共生き(ともいき)」の理念に基づく、人間力の向上を核とし、社会の発展と文化の向上に寄与できる、総合的教養を身につけた幅広い職業人の養成を目的とする。							
新設学部等の目的	人文学部心理学科では、「こころの問題」の理解・解決を心理学に求める社会的要請に応えるために、本学の建学の理念である「共生き(ともいき)」の思想を体得し、こころと行動に関する専門的な心理学的知識を体系的に習得した人材を養成したい。さらに、社会的問題や心理臨床的現象の背景にある心理的要因を理解し、分析し、それらの問題を解決する技術と能力を身につけた人材を養成する。(1)こころに関係した科学的な理解を基礎とした、自己、他者、社会等に関する体系的な知識を有する人材を養成する。(2)個人の心理的問題、対人的問題、こころの障害など、心に関係した様々な問題が生み出される要因を的確に分析し、解決策を提起し実行する能力をそなえた人材を養成する。(3)こころの専門家として、心理的な問題に積極的にアプローチする意欲、使命感、専門的技術を身につけ、「共生き(ともいき)」の理念を実践できる人材を養成する。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	人文学部(School of Humanities) 心理学科(Department of Psychology)	年	人	年次人	人	学士(心理学)	年月 第年次 平成26年4月 第1年次 平成28年4月 第3年次	名古屋市天白区中平2丁目901
	計	4	100	3年次 2	404			
同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)	平成26年4月【定員減】人文学部人文学科(入学定員200人→100人) [△100] (平成25年3月届出済み) (3年次編入学定員5人→3人) [△2] 平成26年4月【定員増】健康栄養学部管理栄養学科(入学定員80人→120人) [40] ※大学全体の収容定員(3,620人→3,780人) [160]							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数		
	人文学部心理学科	講義	演習	実験・実習	計	124単位		
		109科目	27科目	35科目	171科目			

教 員	学 部 等 の 名 称		専任教員等					兼 任 教 員 等	
			教授	准教授	講師	助教	計		
新 設 分	人文学部心理学科		8 (7)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	12 (11)	0 (0)	48 (48)
	計		8 (7)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	12 (11)	0 (0)	48 (48)
既 設 分	経営学部経営学科		15 (15)	9 (7)	1 (1)	1 (0)	26 (23)	0 (0)	86 (86)
	人文学部人文学科		9 (9)	6 (6)	0 (0)	1 (1)	16 (16)	0 (0)	49 (49)
	教育学部教育学科		14 (15)	10 (10)	0 (0)	2 (2)	26 (27)	1 (1)	25 (25)
	スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科		14 (13)	5 (5)	3 (3)	4 (4)	26 (25)	2 (2)	77 (77)
	健康栄養学部管理栄養学科		6 (6)	6 (6)	0 (0)	7 (6)	19 (18)	6 (5)	23 (23)
	計		58 (57)	36 (34)	4 (4)	15 (15)	113 (108)	9 (9)	260 (260)
合 計			66 (64)	39 (37)	4 (4)	16 (16)	125 (119)	9 (9)	308 (308)
教員以外の職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計		大学全体
	事 務 職 員		47 人 (47)		27 人 (27)		74 人 (74)		
	技 術 職 員		0 (0)		0 (0)		0 (0)		
	図 書 館 専 門 職 員		4 (4)		3 (3)		7 (7)		
	そ の 他 の 職 員		0 (0)		0 (0)		0 (0)		
計			51 (51)		30 (30)		81 (81)		
校 地 等	区 分	専 用	共 用		共用する他の学校等の専用		計		大学全体
	校 舎 敷 地	35,364.01㎡	0㎡		0㎡		35,364.01㎡		
	運 動 場 用 地	87,105.89㎡	0㎡		0㎡		87,105.89㎡		
	小 計	122,469.90㎡	0㎡		0㎡		122,469.90㎡		
	そ の 他	76,402.93㎡	0㎡		0㎡		76,402.93㎡		
合 計		198,872.83㎡	0㎡		0㎡		198,872.83㎡		
校 舎		専 用	共 用		共用する他の学校等の専用		計		大学全体
		45,273.78㎡ ( 45,273.78㎡)	0㎡ ( 0㎡)		0㎡ ( 0㎡)		45,273.78㎡ ( 45,273.78㎡)		
教 室 等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設		語学学習施設		大学全体	
	49室	34室	20室	11室 (補助職員4人)		1室 (補助職員0人)			
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称			室 数				
		人文学部心理学科			12 室				
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	「機械・器具」 「標本」は大学 全体を含む	
	人文学部 心理学科	23,847 [1,776] (23,847 [1,776])	90 [ 23] (90 [ 23])	5 [ 5] ( 5 [ 5])	657 ( 657)	1,140 ( 1,140)	36 ( 36)		
	計	23,847 [1,776] (23,847 [1,776])	90 [ 23] (90 [ 23])	5 [ 5] ( 5 [ 5])	657 ( 657)	1,140 ( 1,140)	36 ( 36)		
図 書 館	面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数			大学全体	
	3,539.818㎡		414席		270,000冊				
体 育 館	面 積		体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要					大学全体	
	3,975.03㎡		室内プール・トレーニングジム・ダンス室						

経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書購入費については経常経費の中で措置		
		教員1人当り研究費等		250千円	250千円	250千円	250千円				
		共同研究費等		0千円	0千円	0千円	0千円				
		図書購入費	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円				
	設備購入費	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円					
学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	届出学科全体				
	1,340千円	1,180千円	1,180千円	1,180千円	—千円	—千円					
学生納付金以外の維持方法の概要			完成時までの運営費は手数料収入・法人全体収入を充当する。								
既設大学等の状況	大学の名称		東海学園大学								
	学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	経営学部 経営学科		年	人	年次人	人	学士 (経営学)	1.24	平成7年度	愛知県みよし市福谷町西ノ洞21番地233	
	人文学部 人文学科		4	200	30	860	学士 (人文学)	1.17	平成12年度	名古屋市天白区中平2丁目901	
	教育学部 教育学科		4	150	5	420	学士 (発達教育)	1.27	平成24年度	名古屋市天白区中平2丁目901	
	人文学部 発達教育学科		4	100	10	420	学士 (発達教育)	—	平成20年度	名古屋市天白区中平2丁目901	平成24年度より学生募集停止
	スポーツ健康科学部 スポーツ健康科学科		4	235	5	950	学士 (スポーツ健康科学)	1.26	平成24年度	愛知県みよし市福谷町西ノ洞21番地233	
	人間健康学部 人間健康学科		4	250	30	1,060	学士 (人間健康学)	—	平成16年度	愛知県みよし市福谷町西ノ洞21番地233	平成24年度より学生募集停止
	健康栄養学部 管理栄養学科		4	80	—	320	学士 (栄養学)	1.16	平成23年度	名古屋市天白区中平2丁目901	
	人間健康学部 管理栄養学科		4	80	—	320	学士 (管理栄養学)	—	平成16年度	名古屋市天白区中平2丁目901	平成23年度より学生募集停止

経営学研究科 修士課程	2	20	—	40	修士 (経営学)	0.53	平成12 年度	愛知県みよし市福谷 町西ノ洞21番地233	
附属施設の概要	該当なし								

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

## 学校法人東海学園 設置認可等に関する組織の移行表

平成25年度	入学 定員	編入学 定員	3年次	収容 定員
東海学園大学				
経営学部経営学科	230	5	3年次	930
人文学部人文学科	200	5	3年次	810
教育学部教育学科	150	5	3年次	610
スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科	235	5	3年次	950
健康栄養学部管理栄養学科	80	-		320
計	895	20		3620
東海学園大学大学院				
経営学研究科経営学専攻 (M)	20	-		40
計	20	-		40

→

→

平成26年度	入学 定員	編入学 定員	3年次	収容 定員	変更の事由
東海学園大学					
経営学部経営学科	230	5	3年次	930	
人文学部人文学科	<u>100</u>	<u>3</u>	3年次	<u>406</u>	定員変更 (収容定員減)
人文学部心理学科	<u>100</u>	<u>2</u>	3年次	<u>404</u>	学部の学科の設置 (設置届出)
教育学部教育学科	150	5	3年次	610	
スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科	235	5	3年次	950	
健康栄養学部管理栄養学科	<u>120</u>	-		<u>480</u>	定員変更 (収容定員増)
計	<u>935</u>	20		<u>3780</u>	
東海学園大学大学院					
経営学研究科経営学専攻 (M)	20	-		40	
計	20	-		40	

教育課程等の概要																
(人文学部心理学科)平成26年度																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
全	共生の理解	共生人間論Ⅰ	1前	2			○								兼1	
		共生人間論Ⅱ	3後	2			○								兼1	
		共生人間論実習A	2・3前・後		1				○							兼1
		共生人間論実習B	1・2・3・4前・後		1				○							兼1
		共生人間論実習C	1・2・3・4前・後		1				○							兼1
		共生人間論実習D	1・2・3・4前・後		1				○							兼1
学	スポーツ・日本文化	共生人間論実習E	1・2・3・4前・後		1				○						兼1	
		スポーツ(バドミントン)	1前・後		1				○						兼4	
		スポーツ(テニス)	1前・後		1				○						兼3	
		スポーツ(バスケットボール)	1前・後		1				○						兼1	
		スポーツ(バレーボール)	1前		1				○						兼1	
		スポーツ(サッカー)	1前・後		1				○						兼1	
		スポーツ(ソフトボール)	1後		1				○						兼1	
		スポーツ(ゴルフ)	1前・後		1				○						兼1	
		スポーツ(スイミング)	1後		1				○						兼1	
		スポーツ(エアロビクス)	1前・後		1				○						兼2	
		スポーツ(アクアビクス)	1前・後		1				○						兼2	
		競技スポーツⅠ	1後		1				○						兼1	
		競技スポーツⅡ	2後		1				○						兼1	
		競技スポーツⅢ	3後		1				○						兼1	
		日本文化(書道)	1・2・3・4前・後		1				○						兼1	
		日本文化(茶道)	1・2・3・4前・後		1				○						兼1	
		日本文化(華道)	1・2・3・4前・後		1				○						兼1	
		日本文化(舞踊)	1・2・3前・後		1				○						兼1	
日本文化(能)	1前・後		1				○						兼1			
日本文化(歌舞伎)	1後		1				○						兼1			
日本文化(陶芸)	1・2・3		1				○						兼1			
日本文化(武道)	1前・後		1				○						兼1			
目	キャリア	キャリアデザインⅠ	1前	2			○								兼1	
		キャリアデザインⅡ	1後	2			○								兼1	
		キャリアサポートⅠ	2前		2		○								兼1	
		キャリアサポートⅡ	2後		2		○								兼1	
		キャリアサポートⅢ	3前		2		○								兼1	
		キャリア実践研究	3後		2				○						兼1	
		キャリア実務演習	3後		2				○						兼1	
		情報リテラシーⅠ	1前		1			○							兼1	
		情報リテラシーⅡ	1後		1			○							兼1	
群	日本語	日本語表現法A(音声)	1前・後		2			○							兼1	
		日本語表現法B(文章)	1前・後		2			○							兼1	
群	外国語	総合英語Ⅰ	1前	1				○							兼4	
		総合英語Ⅱ	1後	1				○							兼4	
		総合英語Ⅲ	2前・後		1				○		1				兼1	
		英会話Ⅰ	1前	1					○						兼4	
		英会話Ⅱ	1後	1					○						兼4	
英会話Ⅲ	2前・後		1				○						兼2			

教育課程等の概要															
(人文学部心理学科)平成26年度															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
全 学 共 通 科 目 群	外国語	基礎中国語Ⅰ	2前	1			○							兼2	
		基礎中国語Ⅱ	2前・後	1			○							兼1	
	人文	哲学	1前		2		○			1					
		倫理学	3前・後		2		○			1					
		心理学	1前・後		2		○			1					
		日本史	1前・後		2		○								兼1
		世界史	1前・後		2		○								兼1
		日本文学	1前		2		○								兼1
		外国文学	2後		2		○			1					
		異文化理解	2前・後		2		○								兼1
		日本文化論	1前・後		2		○			1					
	仏教文化史	1前・後		2		○								兼1	
	社会	憲法と基本権	1前・後		2		○								兼1
		社会生活と法	2前・後		2		○								兼1
		暮らしと経済	1前		2		○								兼1
		市民社会と政治	3前		2		○								兼1
		社会の成り立ち	1後		2		○								兼1
		高齢者と福祉	2前・後		2		○			1					
		国際事情	3前・後		2		○								兼1
		社会保障論	2前・後		2		○								兼1
社会と福祉	1前・後		2		○								兼1		
自然	健康と運動	1前・後		2		○								兼1	
	生活と環境	1後		2		○								兼1	
	自然と環境	1前		2		○								兼1	
	生命の科学	1前・後		2		○								兼1	
	生物学Ⅰ	1前		2		○								兼1	
	生物学Ⅱ	1後		2		○								兼1	
	化学Ⅰ	1前		2		○								兼1	
	化学Ⅱ	1後		2		○								兼1	
	物理学	1前・後		2		○								兼1	
	数学	1前・後		2		○								兼1	
	小計 (76科目)	—	12	104	0	—			5	0	0	0	0	兼58	

教育課程等の概要															
(人文学部心理学科)平成26年度															
科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門基礎科目群	学部共通科目	自然科学の基礎知識	1後		2		○			1					
		人文科学の基礎知識	2前		2		○			1					
		社会科学の基礎知識	2後		2		○		1						
		仕事の世界	2前		2		○		1						
		生涯学習概論	2後		2		○							兼1	
		小計 (5科目)		0	10	0		—	2	0	0	0	0	兼1	
専門科目群	基幹科目	心理学基礎論Ⅰ	1前		2		○			1					
		心理学基礎論Ⅱ	1後		2		○								
		心理学基礎実験	2前		2				○	1	1				兼8
		心理学特殊実験	2後		2				○	1	1				兼8
		感覚・知覚心理学	2前		2			○		1					
		認知心理学	2後		2			○		1					
		感情心理学	2前		2			○		1					
		教育心理学	2前		2			○			1				
		発達心理学	1前		2			○			1				
		適応の心理学	3後		2			○		1					
		臨床心理学	1前		2			○					1		
		パーソナリティ心理学	1前		2			○			1				
		社会心理学	1後		2			○		1					
		心理統計法Ⅰ	1後		2			○		1					
		心理統計法Ⅱ	2前		2			○			1				
		心理統計法Ⅲ	2後		2			○			1				
		心理学英文講義Ⅰ(基礎)	1前		2			○			1				
心理学英文講義Ⅱ(長文読解)	1後		2			○			1						
		小計 (18科目)		18	18	0		—	4	3	0	1	0	兼8	
専門科目群	展開応用科目	心理学研究法Ⅰ	3前		2		○			1					
		心理学研究法Ⅱ	4前		2		○			1					
		調査法Ⅰ(質問紙作成技法)	2前		2			○		1					
		調査法Ⅱ(データ分析)	2後		2				○	2	1				
		実験心理学	2後		2			○		1					
		動物心理学	3後		2			○		1					
		学習心理学	3前		2			○							兼1
		生理心理学	3前		2			○							兼1
		ことばと心理	3前		2			○		1					
		論理と心理	4後		2			○		1					
		学校心理学	2後		2			○			1				
		教育評価法	3後		2			○			1				
		障害児心理学	2前		2			○							兼1
		生涯発達心理学	3前		2			○		1					
		カウンセリング基礎	3前		2			○					1		
		カウンセリング応用	3後		2			○					1		
		心理診断法Ⅰ(質問紙法)	2後		2			○			1				
		心理診断法Ⅱ(投影法)	3前		2			○			1				
		心理療法論	3後		2			○			1				
		集団心理学(グループダイナミクス)	2後		2			○		1					
		対人関係論	2前		2			○					1		
		産業・組織心理学	3後		2			○		1					
		環境心理学	3後		2			○							兼1
		応用心理学	3後		2			○							兼1
		コミュニティ心理学	2後		2			○		1					
		文化心理学	3前		2			○				1			
		家族心理学	3前		2			○			1				
		コミュニケーション心理学	1前		2			○				1			兼1
行動観察法	3後		2					○					兼3		
面接法	3前		2					○			1		兼2		
医学概論	4前		2			○						1	兼1		
健康心理学	3前		2			○					1				
社会調査論	1後		2			○			1						
調査演習Ⅰ	2前		2				○			1					
調査演習Ⅱ	2後		2				○			1					
		小計 (35科目)		4	66	0		—	5	3	0	1	0	兼12	



教育課程等の概要															
(人文学部心理学科)平成26年度															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
演習科目群	演習科目	基礎演習Ⅰ	1前	2				○		8	3		1		
		基礎演習Ⅱ	1後	2				○		8	3		1		
		基礎演習Ⅲ	2前	2				○		8	3		1		
		基礎演習Ⅳ	2後	2				○		8	3		1		
		総合演習Ⅰ	3前	2				○		8	3		1		
		総合演習Ⅱ	3後	2				○		8	3		1		
		総合演習Ⅲ	4前	2				○		8	3		1		
		総合演習Ⅳ	4後	2				○		8	3		1		
	小計(8科目)			16	0	0		—	8	3	0	1	0	0	
資格関連科目群	博物館概論	1後			2	○								兼1	
	博物館経営論	3後			2	○								兼1	
	博物館資料論	2前			2	○								兼1	
	博物館資料保存論	3後			2	○								兼1	
	博物館展示論	2前			2	○								兼1	
	博物館教育論	2後			2	○								兼1	
	博物館情報・メディア論	3前			2	○								兼1	
	博物館実習Ⅰ(見学実習)	3前・後			1			○						兼1	
	博物館実習Ⅱ(学内実習)	4前・後			1			○						兼1	
	博物館実習Ⅲ(館園実習)	4前・後			1			○						兼1	
	日本文化と文化財	3後			2	○								兼1	
	日本美術史	2前			2	○								兼1	
	日本考古学	2前・後			2	○								兼1	
	図書館概論	1前			2	○								兼1	
	図書館制度・経営論	2後			2	○								兼1	
	情報技術論	2前			2	○								兼1	
	図書館サービス概論	2前			2	○								兼1	
	情報サービス論	2後			2	○								兼1	
	児童サービス論	2前			2	○								兼1	
	情報サービス演習Ⅰ	3前			1			○						兼1	
	情報サービス演習Ⅱ	3後			1			○						兼1	
	図書館情報資源概論	1前			2	○								兼1	
	情報資源組織論	1後			2	○								兼1	
	情報資源組織演習Ⅰ	2前			1			○						兼1	
	情報資源組織演習Ⅱ	2後			1			○						兼1	
	情報と著作権	1後			2	○				1					
	図書館サービス特論	3前			1	○								兼1	
	ベストセラー研究	2前			2	○								兼1	
	図書・図書館史	3前			1	○								兼1	
	小計(29科目)			0	0	49		—	1	0	0	0	0	兼9	
合計(171科目)				50	198	49		—	8	3	0	1	0	兼88	
学位又は称号		(学士)心理学	学位又は学科の分野				文学関係								
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
全学共通科目群25単位以上、専門基礎科目群：学部共通科目6単位以上、基幹科目26単位以上、展開応用科目30単位以上、演習科目群16単位修得し、124単位以上修得すること。								1学年の学期区分		2学期					
(履修科目の登録上限：49単位(年間))								1学期の授業期間		15週					
								1時限の授業時間		90分					

授 業 科 目 の 概 要			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目群	共生の理解 共生人間論 I	<p>【概要】</p> <p>21世紀は共生の世紀といわれる。しかし、世界情勢や国内の諸問題を見るとき、また自然環境の破壊や汚染の状況を見るとき、更には人間関係を見るとき、あまりにも反共生的な現実に溢れている。こうした現実を真正面から見詰め、その背景にある問題、思想的な課題を分析し、これからの人類の生き方と、その理念的な根拠（パラダイム）を考えていくこととする。そのためには生態系における共生の実際や人間の本質などをも参考にする。</p> <p>「共生人間論」であるので、共生の問題とあわせて、その共生を人間という立場から問う関係上、人間存在についても問いかけることとする。その上に立って、人間の生き方を考察し、あわせて仏教の基本的な考え方と対比して、仏教による共生への道の意義を検討する。人間だけが持つ宗教を通じた共生の可能性と仏教への理解が深まることを期待する。</p>	
全学共通科目群	共生の理解 共生人間論 II	<p>【概要】</p> <p>共生人間論 I での理解を通して、現代社会の問題に対して、仏教の立場から共生について考察する。したがって、仏教のものの考え方、見方の理解からはじめて、本学の建学の精神である仏教の共生の理論について理解を深めることを目的とする。そのために仏教の基本的な思想構想としての縁起の思想、無常という促し方、無我という立場、さらには世界で初めて「共生」の言葉を作り出し社会的に実践した、本学の初代学長である「椎尾弁匡」の共生論の特質、さらには浄土教における共生論について理解を深め、これからの人類の生き方について考えることとする。</p>	
全学共通科目群	共生の理解 共生人間論実習A 共生人間論実習B 共生人間論実習C 共生人間論実習D 共生人間論実習E	<p>【概要】</p> <p>他者との共生、それは自己中心的な生き方ではなく、他者の苦しみを自己の問題として受け止め、その苦しみを抜くために、また他者の幸せのために、自己が出来ることは何かに気づき、自らの生き方を実際的に変革していく生き方である。従って、それぞれが自己の出来る自我らを通して、実践的に他者に関与して、他者理解を深め自己変革を行うための実習を行う。</p> <p>実習日数4日～1週間を予定している。実習機関は福祉施設を始め、ボランティア活動、あるいは地域や団体における様々な活動もその対象となる。それらの詳細については前期（春）ガイダンス以降に履修登録者に説明する。</p>	
全学共通科目群	スポーツ文化 スポーツ（バドミントン）	<p>【概要】</p> <p>高度に機械化・情報化の進んだ現代社会では、健康を維持・増進するためには、定期的な身体運動の継続が肝要である。この授業では、バドミントンを教材としてとりあげ、バドミントンの学習を通して、健康を維持・増進するために生涯にわたってスポーツを楽しむながら実践する能力を養うことを目的とする。また、バドミントンの学習を通して技術の向上を図ることは勿論のこと、体力の増進や全力を発揮する態度を養い、フェアプレー、スポーツマンシップを涵養し、仲間との交流を図ることも目的とする。</p>	
全学共通科目群	スポーツ文化 スポーツ（テニス）	<p>【概要】</p> <p>スポーツ種目の特徴を理解し、そのスポーツ種目の基礎的な技術の向上に努めるとともにゲームらしく行える戦術を学習し、参加者お互いが楽しめるよう努力する。</p> <p>スポーツゲームで身体を動かすことは、食物から栄養を摂取することと同様に人間の身体には不可欠なことである。したがって、生涯身体運動が楽しく実践できるように、この授業では基本的な技術の習得を主たる目的とする。</p>	
全学共通科目群	スポーツ文化 スポーツ（バスケットボール）	<p>【概要】</p> <p>本科目はバスケットボールを中心に行う。競技の発祥と競技特性に関する知識をはじめ、基本技術・動きやルールなどについて実践を通じて学習する。</p> <p>専門的技術の練習をし、その成果がどの程度向上することができたかを中間及び最後のまとめで確認する。課題をクリアすることによって、それをゲームに活かし高度な戦術につなげることにより競技の楽しみを知る。</p>	
全学共通科目群	スポーツ文化 スポーツ（バレーボール）	<p>【概要】</p> <p>バレーボールは集団スポーツであり、集団による協力が重要である。本授業では、バレーボールにおける個人技術の向上、技術・戦術の理解や、体力トレーニングの方法を学ぶだけでなく、集団による協力の重要性を、ゲームを通して理解・実践する事である。</p> <p>また、相互のコミュニケーション能力を養い、生涯スポーツの一つとして、バレーボールを楽しく実践できることを目的とする。</p>	
全学共通科目群	スポーツ文化 スポーツ（サッカー）	<p>【概要】</p> <p>サッカーという競技の楽しさとは、状況を把握し、自分が判断してプレー（行動）を決定し、イメージ通りにプレーできることである。この授業ではさまざまな工夫でプレーを確保し、判断の伴うスキルの獲得、動きの中でのスキルの獲得を目的とする。</p> <p>「サッカーは少年を大人にし、大人を紳士にするスポーツである。」この言葉のもつ意味を理解し、スポーツの精神、フェアプレーの精神を体現できる教養と人格を身に付けることを目指す。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目群	スポーツ 日本文化・ スポーツ	【概要】 ソフトボールは、老若男女に親しまれ、学校体育でも取り入れられている生涯スポーツの1つである。また、わが国では女子日本代表の国際大会における活躍にも見られるように、競技スポーツとしての人気も高い。 この授業では、ソフトボールをレクリエーションスポーツ・競技スポーツの両面から捉え、実践を通して競技に必要な知識や実技を学ぶことを目的とする。また、ゲームを基本とし、そのゲームから得た問題点や改善点を修正する練習を授業に取り入れて行きたいと考えている。	
全学共通科目群	スポーツ 日本文化・ スポーツ	【概要】 この授業では、ゴルフの授業（ゴルフを行うこと、観戦すること、調べたり考えること、皆で協力したり支えあったりすること）を通して、スポーツあるいはスポーツ文化への学びを深め、スポーツをより理解したり実践できる能力を養うことを目的とする。また、ゴルフは紳士、淑女のスポーツといわれる。これは、エチケットやマナーが時としてプレーよりも重要視される場合があることに由来するが、本授業においてもゴルフの技術だけでなく歴史、ルールあるいはマナーにふれることでスポーツの持つ奥深さを学んでほしい。	
全学共通科目群	スポーツ 日本文化・ スポーツ	【概要】 現在、生涯スポーツという観点からみると、求められる水泳のあり方が多様化してきているのではないかと。オリンピック、マスターズなどの競技としての水泳は、やはりその頂点に位置すると思われるものの、実際には、マリンスポーツ、アクアティックエクササイズなど、レジャーとしての水中活動、健康づくりとしての水泳が幅広く受け入れられているように思われる。 そこでこの授業では、水泳を通して、いかに健康のレベルを高めるかを目的として、トレーニング方法を紹介する。また、応用技術として、本学の屋内プールの特質を最大限活用した水中活動を試み、長く水泳に接してもらえるような土台をつくりたい。	
全学共通科目群	スポーツ 日本文化・ スポーツ	【概要】 エアロビクスダンスエクササイズの魅力を体感し、基本動作の習慣と、それらを自己の身体で表現する能力を身につける。これに伴い、安全に関する知識も学ぶ。音楽に合わせて運動するという他の有酸素運動にない特徴を体験する。上肢下肢をバランスよく組み合わせ、安全で効果的な要素を踏まえながら、「多種多様な動き」を習得する。	
全学共通科目群	スポーツ 日本文化・ スポーツ	【概要】 超高齢化社会を迎えたわが国では、寝たきりにならず生涯にわたって健康で自立した生活を営むことが求められる。この授業では、アクアビクスを教材として取り上げ、アクアビクスの学修を通じて生涯にわたってスポーツを実践する能力を養うことを目的とする。またアクアビクスの技術を向上させることは勿論のこと、体力の増進を図ると同時に仲間との交流も目的とする。	
全学共通科目群	スポーツ 日本文化・ 競技スポーツⅠ 競技スポーツⅡ 競技スポーツⅢ	【概要】 スポーツの競技力は体力×技術・戦術×精神力という方程式で表される。この授業では、特定の競技種目におけるトップアスリートを育成することを目的とし、それぞれの競技種目の特性や専門性を理解し、競技力に関する要素全般のアップを集中的に図る。 Ⅰでは競技の基礎技術・戦術の習得の徹底を図る。 Ⅱでは基礎技術・戦術の応用を学ぶ。 Ⅲでは実践の中でこれまでに修得した技術・戦術がどこまで通用するかを試し、更なる向上を目指す。体力や精神力についても、ⅠからⅡ、さらにⅡからⅢへとアップを図る。 種目：野球、サッカー、テニス、ソフトボール、水泳、陸上、相撲	
全学共通科目群	日本文化 日本文化・ 日本文化	【概要】 悠久の豊かな中国の名品と日本の優美華麗な名筆をビデオなどによって接し鑑賞する。書の様々な歴史的意義、流れを知る。実技によって、うるわしい書の技法を学び、個性溢れる様々な楽しい作品を制作する。又、会社実務や日常の暮らしの中で役立つ実用書道を学ぶ。	
全学共通科目群	日本文化 日本文化・ 日本文化	【概要】 [礼に始まり礼に終わる]という日本人として大切な『心』をしっかりと身につけることにより、茶道文化については日本文化のより深い理解へと繋げるとするのが授業の目的である。毎回の授業で茶道の理論と実習を体験し、菓子や茶の食べ方や抹茶の飲み方を覚える。また、茶道文化が日本人の衣食住全てにわたる生活文化であることを認識する。	

授 業 科 目 の 概 要			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目群	スポーツ・ 日本文化	日本文化(華道)	<p>【概要】</p> <p>21世紀は「交流新時代」といわれる。15世紀にヨーロッパに波及したイタリア・ルネッサンスから500年たち、物質文明から心のコミュニケーションが重視されることから21世紀は「新ルネッサンス時代」ともいえる。「交流新時代」の中で特に重要なものは「自然と人との交流」である。</p> <p>日本の伝統文化である「華道」は応仁の乱で荒れた室町時代の東山文化期に誕生し、700年余りの歴史の中で育成され、日本発進の世界的な芸術文化として21世紀に新たな展開を秘めている。自然との共存、共生の華道の美的感性と東洋の美意識を理論と実技を通して学ぶことは、「人間形成上」大切なことである。</p>
全学共通科目群	スポーツ・ 日本文化	日本文化(舞踊)	<p>【概要】</p> <p>「舞踊」は明治時代に創られた言葉で、それ以前は「おどり」である。つまり昔ほどの「おどり」も日本舞踊で、基礎は同じである。この授業は約400年の歴史を持つ歌舞伎舞踊を中心に、それ以前の芸能、現代の芸能・生活との関連性、海外との関連性、また音楽・美術・舞台・きもの・礼儀作法など舞踊にまつわる文化を紹介する。</p> <p>実技を中心に据え、身体の動かし方から、扇子の扱い方、音楽の聞き取り方、せりふ、着付などをビデオ・実際の舞台鑑賞などを加えて行う。</p>
全学共通科目群	スポーツ・ 日本文化	日本文化(能)	<p>【概要】</p> <p>能は世阿弥により開花した室町初頭から600年に及ぶ。その間、権力者の後援を受け隆盛を誇り、又は応仁の乱や明治維新などで存亡の危機に陥ったり、徳川幕府からは古いままやれ、新しい工夫はするなと超保守的になる事(伝統芸能)を強いられた。その結果として内面を熟成し芸術美を深め象徴的な能が出来上がった。</p> <p>中世にはほぼ確立した能はその後歌舞伎、日本舞踊等演劇や文学にも大きな影響をあたえ、現代に継承されている。</p> <p>能はもともと室町時代という短い期間に書かれたものが主体であるから、能の中の文章やストーリーに分からない所があるのは当たり前で、この時代の日本人と今の日本人の感性には隔たりがありすぎる。宗教観、生活観、男女のこともそうである。</p> <p>能を理解することを目的とし、そのために能の基礎知識を学び、能を鑑賞し、能の真髄に触れ、日本文化の理解と国際文化の理解と国際交流に役立てるようにする。</p>
全学共通科目群	スポーツ・ 日本文化	日本文化(歌舞伎)	<p>【概要】</p> <p>日本のオリジナルの演劇である歌舞伎を通し、日本人の美意識や表現方法、思考形態などを学び、日本文化を理解する。また、歌舞伎とシェイクスピアなど欧米の演劇や、歌舞伎と現代演劇などを比較研究することで、日本だけでなく、世界の舞台芸術にも影響を与えつつある歌舞伎の表現方法の普遍性と獨創性、素晴らしさを学ぶ。</p>
全学共通科目群	スポーツ・ 日本文化	日本文化(陶芸)	<p>【概要】</p> <p>人間(ひと)と陶芸(やきもの文化)の関わりは極めて幅広く奥の深いものである。この講座ではその歴史、技術の習得はもとより人間にとって重要である豊かな感性の形成を目指す。</p>
全学共通科目群	スポーツ・ 日本文化	日本文化(武道)	<p>【概要】</p> <p>柔道は、昔からわが国に伝えられた柔術を嘉納治五郎が、人間形成の教育法として集大成し、柔道として創始されたものである。現在ではオリンピック種目にも採用され、柔道が国際化するのに伴って、日本文化としての柔道がその内容を失う危惧がある。「精力善用・自他共栄」を特性とする柔道は、技術の原理を習得するものではなく、精神と身体力を有効に使用することを本質としている。</p> <p>本授業は、柔道の伝統文化としての歴史、柔道独特の人間形成としての意味を加えながら、柔道の理解を深めていくことを目的とする。</p>
全学共通科目群	キャリア	キャリアデザインⅠ	<p>【概要】</p> <p>キャリアデザイン、すなわち自分自身をよく理解し、将来の社会人としての「なりたい自分」のイメージを描くための講座である。</p> <p>「なりたい自分」をイメージするには、まず自分自身の「興味」や「価値観」について知ることが大切である。そして自分の興味や価値観が、世の中にある職業とどうつながるのかを様々な課題を通して考えていく。</p> <p>また、「なりたい自分」だけではなく、ビジネス社会で求められる「社会人基礎力」という観点から自分の強み・弱みを知り、今後の対策を考えていく。</p> <p>本講座は、カードやセルフチェックテストといった親しみやすいツールを使って楽しみながらキャリアデザインができるような構成になっている。自分と仕事についての理解を深め、さらに自分自身の可能性を広げることにより、あなたが充実した学生生活を送れるようにすることがこの授業の目的である。</p>

授 業 科 目 の 概 要			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目群	キャリア キャリア	キャリアデザインⅡ	<p>【概要】</p> <p>キャリアデザイン、すなわち自分自身をよく理解し、将来の社会人としての「なりたい自分」のイメージを描くための講座である。</p> <p>「なりたい自分」をイメージするには、まず自分自身の「興味」や「価値観」について知ることが大切である。そして自分の興味や価値観が、世の中にある職業とどうつながるのかを様々な課題を通して考えていく。</p> <p>また、「なりたい自分」だけではなく、ビジネス社会で求められる「社会人基礎力」という観点から自分の強み・弱みを知り、今後の対策を考えていく。</p> <p>本講座は、職業を通して社会参加することの意味、就職に対する意識付け・自己分析・自己理解等を理解させて再確認させる。同時に企業研究・業界分析の仕方を始め、学生自身の適職探しに至ることを目的とする。</p>
全学共通科目群	キャリア キャリア	キャリアサポートⅠ	<p>【概要】</p> <p>この講義の目的は、就職活動に対する基礎的な考え方や能力を身につけることを目指している。就職活動を開始する前に、じっくり時間をかけて職業意識を養いながら、就職活動中または就職後に必要とされる基本的な知識やスキルを涵養することで、社会人としての素地を形成することができ、スムーズに就職活動に移行することができる。</p> <p>具体的には、就職試験対策としてのSPI2や一般常識、Webテストに準拠した内容で講義は展開。また、社会において必要とされるコミュニケーション能力やビジネスマナーを身に付けるとともに、職業人意識を醸成する。</p>
全学共通科目群	キャリア キャリア	キャリアサポートⅡ	<p>【概要】</p> <p>この講義の目的は、就職活動に対する基礎的な考え方や能力を身につけることを目指している。就職活動を開始する前に、じっくり時間をかけて職業意識を養いながら、就職活動中または就職後に必要とされる基本的な知識やスキルを涵養することで、社会人としての素地を形成することができ、スムーズに就職活動に移行することができる。</p> <p>具体的には、就職試験対策としてのSPI2や一般常識、Webテストに準拠した内容で講義は展開。また、社会において必要とされるコミュニケーション能力やビジネスマナーを身に付けるとともに、職業人意識を醸成する。</p>
全学共通科目群	キャリア キャリア	キャリアサポートⅢ	<p>【概要】</p> <p>社会人として必要な「マナー」を、単なる机上の知識としてではなく、場面や役割に応じた生きた使い方をすることによって、「自分の働き方」に結びつけるための考え方を学ぶ講座である。</p> <p>ビジネスに限らず、人と人が出会い、より良い人間関係を築くためには「相手を思いやる気持ち」が大切である。この「思いやりの気持ち」を形に表わしたものが「マナー」である。いくら気持ちがあっても、形として表せなければ他者には伝わらない。マナーが身につくと人間関係は自然にスムーズになり、コミュニケーション力もアップする。</p> <p>また、社会人になる前にも、就職活動の場面でビジネスマナーやコミュニケーション力が評価される。近年は、就職活動前に就労体験ができるインターンシップの機会も増えている。</p> <p>就職活動・インターンシップにおいても、まずは社会のルールやマナーを理解しているかが問われる。</p> <p>マナーに関する知識や考え方を習得し、就職活動やインターンシップに自信をもってチャレンジしよう。</p>
全学共通科目群	キャリア キャリア	キャリア実践研究	<p>【概要】</p> <p>実践的なスキルや技術の習得としてのインターンシップ（学生が在学中に、企業・団体等において自らの専攻や将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと）に参加することにより、実社会に触れることによる学習意欲の向上を主たる目的とする。事前研修により、インターンシップ参加の心構えを身につける。インターンシップにおいて実社会の現状を把握する。インターンシップ終了後、自らの経験や今後の学生生活の取組方針について、まとめるとともに、プレゼンテーションができることを目指す。</p>
全学共通科目群	キャリア キャリア	キャリア実務演習	<p>【概要】</p> <p>実際の就職活動と並行して学ぶことで、学習内容をそのまま実践につなげられる就職活動支援講座である。</p> <p>就職活動のハウツーやテクニックばかりではなく、社会で求められる基本的な能力（コミュニケーション力・実行力・思考力）を実際の就職活動を進めながら体系的に身につけられる構成になっている。</p> <p>本講座では、自分自身が抱えている不安や課題の解決への道を探りながら、ゴールを目指している。そのために必要な、行動計画、情報収集、業種・企業選択、自己分析・応募書類作成などを授業の中でこなしていく。</p> <p>毎回着実に自分が直面している就職活動の課題を達成していくことで、「やればできる」という自信にもつながる。</p>
全学共通科目群	キャリア キャリア	情報リテラシーⅠ	<p>【概要】</p> <p>今日の社会では、あらゆる場面においてパソコンなど情報機器の使用やインターネットを利用した情報収集が不可欠になっている。このような情報化社会において、一般的な機器やソフトウェアの基本操作のほか、ネット社会の一員として良識ある態度や自己防衛策を身につける必要がある。そこで、情報リテラシーⅠでは4年間の大学生活を送るうえで、最低限、身につけておくべきコンピュータ・リテラシー（コンピュータを使いこなす能力）、及び情報リテラシー（情報を使いこなす能力）を学習する。</p>

授 業 科 目 の 概 要			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目群	キャリア	情報リテラシーⅡ 【概要】 現在では企業だけでなく様々な組織で、パソコンを用いたデータの分析・視覚化が必要とされるようになってきている。また、わかりやすく視覚的にもインパクトのあるプレゼンテーションも活用される場面は多い。そこで、情報リテラシーⅡでは、表計算ソフトによるデータの分析方法と、プレゼンテーション作成ソフトを使用した研究発表・企画提案の方法を学習する。	
全学共通科目群	日本語	日本語表現法A(音声) 【概要】 みんなの前で、3分程度の話や朗読をする。聞き手としてのレポートを提出する。 【授業計画】 (第1回) 声の文化(話しことばと書きことば) (第2回) 自分探し(自分のことを表現する) (第3回) 自分の言葉で話す (第4回) 自分の声を点検する (第5回) 聞きやすい声(共通語の発声) (第6回) 言葉の粒立て(共通語の発音) (第7回) こちよく響くことば(鼻濁音) (第8回) 歯切れよく話す(母音の無声化) (第9回) 音としての日本語(アクセント、イントネーションなど) (第10回) 声で読む (第11回) 声で表現する (第12回) 朗読、語りを聞く (第13回) みんなの前で声を出す (第14・15回) まとめ 【授業方法】 講義及び実習を主とするが、適宜ビデオ教材も利用する。	
全学共通科目群	日本語	日本語表現法B(文章) 【概要】 文章表現の基本を習得する。日常的・実用的な文章から創造的・文芸的な文章まで、いろいろな文章を書く。基本的な文章の書き方の習得が目的だが、書く事によって意外な自己を発見したり、文を書くことが楽しいという気持ちを感じられることを願う。 文章表現力の向上。テーマに沿って、自分の考えを文章で書けるようになる。 実作とその添削が中心。文章を書く上での欠点は各人異なる。man-to-manで指導する。従って作品を提出すればよいのではなく、毎時出席して指導を受けながら制作することが重要である。	
全学共通科目群	外国語	総合英語Ⅰ 【概要】 本演習では、世界共通語としての英語を必要とする社会の要請に応え、聞く・読む・書くという英語技能の向上を目指し、総合的な英語学習を行う。 なお、英語の学習を効果的にすすめるために、クラス編成は学年当初のプレースメントテストによる到達度別とし、授業内容と教科書は、それぞれのクラスに応じ異なる。	
全学共通科目群	外国語	総合英語Ⅱ 【概要】 本演習では、総合英語Ⅰに引き続き、世界共通語としての英語を必要とする社会の要請に応え、聞く・読む・書くという英語技能の向上を目指し、総合的な英語学習を行う。 なお、英語の学習を効果的にすすめるために、クラス編成は学年当初のプレースメントテストによる到達度別とし、授業内容と教科書は、それぞれのクラスに応じ異なる。	
全学共通科目群	外国語	総合英語Ⅲ 【概要】 本演習では、「総合英語Ⅰ・Ⅱ」に引き続き、世界共通語としての英語を必要とする社会の要請に応え、特に聞く・読む・書くという英語の技能の向上を目指し、総合的な英語学習を行う。 なお、英語の学習を効果的にすすめるために、クラス編成は、1年学期末に行ったプレースメントテストによる到達度別とし、授業内容と教科書は、それぞれのクラスに応じ異なる。	
全学共通科目群	外国語	英会話Ⅰ 【概要】 英語で基礎的なコミュニケーションを取れるように、必要な会話力を養う。とくにスピーキングを強化し、会話を練習する。なお授業の効率化のために、クラス分けテストにより、能力別クラス編成とし、5グループ7クラスに分ける。	
全学共通科目群	外国語	英会話Ⅱ 【概要】 この授業は「英会話Ⅰ」で修得した技能をさらに伸ばし、英語の理解を深めることを目的とする。学生が外国人に会った時、コミュニケーションが取れるようにトレーニングする。 なお、前期(春)と同じクラス編成である。	
全学共通科目群	外国語	英会話Ⅲ 【概要】 1) 英語の様々な文の形を理解しながら、実用的な英会話能力を養う。 2) コミュニケーションの道具としての英語の重要性を理解する。 3) 楽しく英語を学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目群	外国語	基礎中国語Ⅰ	【概要】 外国語としての中国語を理解し、使用できるようになるために、初歩的な基礎の習得を目的とする。ピンイン表記による中国語の正確な発音、聞き取り、簡単な中国語の文型による文法等の初歩的段階での総合的な学習をする。特に、正確な発音と、聞くことのできる基本を身につける。また中国語の学習を通じて、現代中国の文化や社会、人々の暮らしについて知る。
全学共通科目群	外国語	基礎中国語Ⅱ	【概要】 外国語としての中国語を理解し、使用できるようになるために、初歩的な基礎の習得を目的とする。ピンイン表記による中国語の正確な発音、聞き取り、簡単な中国語の文型による文法等の初歩的段階での総合的な学習をする。特に、正確な発音と、聞くことのできる基本を身につける。また中国語の学習を通じて、現代中国の文化や社会、人々の暮らしについて知る。
全学共通科目群	人文	哲学	【概要】 哲学は、常識や科学的な判断などをそのまま受けいれずにその前提にまでさかのぼって吟味しようとする。新しい考え方をつかんだ、と思った人がいても、既に過去の哲学者や思想家が同じようなことを考えていた、ということによくある。したがって、新たなアイデアを模索するだけでなく、過去の学説を学び、考え方の基本に立ち返ることでかえって難局が打開されることもある。そこで、この講義では、西洋哲学の歴史を振り返りながら、基本となる事柄を考え直してみることにしたい。
全学共通科目群	人文	倫理学	【概要】 何が「よい」(「悪い」)ことかを研究するのが倫理学である。主として西洋のアリストテレス以来の倫理思想の紹介を目的とするが、比較対照のために東洋の倫理学説にもふれたい。また近年、新しい問題群として注目を集めている「生命倫理」や「環境倫理」の主なテーマについても説明する。特に重点をおきたいのは、諸学説に関する単なる事典的知識の習得ではなく、何が問題となっているか、どういう考え方があるのか、という内容的な理解である。
全学共通科目群	人文	心理学	【概要】 心理学の各領域の基礎的知見について学ぶ。心理学的枠組みから、人間の「心」や「行動」について考えてもらうことを目的とする。心理学の基礎的用語を正しく理解し、心理学の分野と研究法について理解を深めること。また日常に経験する人間の行動を、心理学の概念と関連づけて理解できることを目指す。
全学共通科目群	人文	日本史	【概要】 かつて日本列島でも犠牲を神に捧げる供犠祭祀が稲作再生産に不可欠の儀式として普通に行われていた。朝鮮半島や中国と共通性の高い社会が日本社会の原像です。東アジア国際社会の対立の中、唐・新羅との対抗のために「日本」=律令国家が作られると、かかる凡東アジアの社会と律令国家の二重構造が形成され、光仁・桓武朝以後の激しい対立を経て、10世紀の平将門・藤原純友の乱を最後に後者が前者を否定・従属させることで「日本」が実体化します。近年、若い人たちに嫌中・嫌韓傾向も見られますが、「日本」を歴史相対化する作業を通して、<u>多様だが共通性を持つ東アジア社会の一員として我々自身をとらえ直し、アジア共生に目を向けたいと考えます。なお『古事記』中国のテキストとの巧みな関係により物語を紡ぎ出しています。本稿ではフランスを中心に発展したテキスト論の方法、構造主義、間テキスト性、生成テキスト論などを用いて、『古事記』と大祓を検討します。具体的な目標として東アジアの視点から、「日本」「日本人」のアイデンティティを問い直し、アジア社会の一員として共生するための、グローバルな教養人を養いたい。
全学共通科目群	人文	世界史	【概要】 グローバル化時代を生きる現在、環境・政治・経済・文化など、あらゆる分野において地球規模で世界を理解することが、時代の要求として求められている。世界はただ一つであり、そこで生じる問題には地球人みんなが一体となって取り組まなければならないからである。そのためには、これまでの一国や狭い地域の枠を超えた地球主義の世界史を構築することが必要となる。本講座ではこうした地球市民意識にもとづく新しい世界観に立って、古代から現代までの人類の歩みを、大きな流れのなかで理解することに重点を置いて見ていく。15回の講義では地球人の歴史を丸ごとカバーすることは不可能ですので、一神教の世界である西ユーラシア(西欧・中東地域)を中心に置いていくことにします。この地域の躍動する歴史を理解することは、現在の世界を理解するうえで欠かせないからである。他の地域は、教科書の自習によって、必要な知識を習得しよう。
全学共通科目群	人文	日本文学	【概要】 この講義では、日本の近代・現代文学について、特に「文学と風土」に焦点をあて、学ぶ。 文学作品の舞台となったところを訪ねたり、作家が生まれ、暮らした土地を知ることにより、それまでとは違った読み方ができる。土地の景色、風、空気などその風土を知り、背景を知ること、文学をより深く読む。

授 業 科 目 の 概 要			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目群	人文	外国文学	<p>【概要】</p> <p>外国文学のなかでも、日ごろ接する機会の少ないであろうインドの作品を楽しく読むことと同時に、その背景にある文化を理解することを主たる目的とする。また、英文理解に必要な文の構造・よく使われる語句を暗記し、できるだけ英語に慣れ親しんでもらいたい。</p>
全学共通科目群	人文	異文化理解	<p>【概要】</p> <p>グローバルな異文化ならびに、他者との関係で捉える異文化もある。さまざまな「文化」にまつわる問題を紹介し、異文化間における問題解決をはかる。そして、文化を異にする人間同士が共に生きるための示唆を得る。文化の多様性、多様なものの見方を知る。異なったものの見方への出会い、接近を通じて、多様な価値観を理解する。そのための方法も会得する。</p>
全学共通科目群	人文	日本文化論	<p>【概要】</p> <p>日本の祭りは、神とともにあった。神を迎えて「宴」すること（もてなすこと）が、「まつりごと」であった。それは稲作の祭りにもあてはまる。「宴」（祝祭）のなかで、人は神となる。稲の霊を人格神として迎え、それをいますがごとく祭る。こうして祭りから神話は生まれてくるのだ。</p> <p>この講義では、日本人が暮らしのなかに伝えてきた「祭り」を通して「祭祀儀礼」、ことに稲作儀礼について学び、稲作をめぐる古代神話と信仰について考える。具体的には、日本各地に伝わる稲作の祭りを紹介しながら、稲の祭りの実際を追いかけてゆく。</p>
全学共通科目群	人文	仏教文化史	<p>【概要】</p> <p>この授業では仏教と日本文化の関わりについて考える。日本人の宗教は一般的に仏教だと言われているが、そもそも仏教の目指していたものは何からか考えを始めて見たい。世界史で学んだ仏教を基にどこまで仏教について知っているかを考え、みんなの仏教観の再検討から始めてみたい。インドから中央アジアを経て漸く日本にたどり着いてきた仏教。それがどのように日本文化に影響を与えてきているかを考えるものである。ある意味では「日本の民俗」を考える授業にもなるが、それだけ日本文化は仏教の影響を受けていたか知れるものである。それは日本人のものの見方、考え方にも様々な影響を与えたわけであるが、日本人の精神性を知るためには重要な要素でもある。</p>
全学共通科目群	社会	憲法と基本権	<p>【概要】</p> <p>日本国憲法が施行されて半世紀以上になる。その間、平和主義を規定した第9条の解釈をはじめとして、憲法そのものの評価をめぐってさまざまな議論がなされ、昨今は憲法改正も取りざたされている。こうした憲法のあり方について最終的な決定権を持つわれわれは、憲法の理念を正しく理解しておく必要がある。憲法は、憲法総論、基本的人権、統治機構の3つの学習分野に大別できるが、最も重要なのは基本的人権の分野であり、基本的人権についての学習が憲法学習の中心となる。そこで、授業では、基本的人権の保障とその内容を中心に解説をし、基本的人権についての理解を深めることを目的とする。なお、憲法総論、統治機構の分野についても必要な限り説明をする。</p>
全学共通科目群	社会	社会生活と法	<p>【概要】</p> <p>社会生活を営むうえで直面する様々な法律問題のうち、身近で日常的な事柄に関して、私法上の法律知識を与えることを講義の目的とします。民法を中心として基本概念を具体的な事例も混えて説明することになりますが、必要に応じて関連する法制度にも言及します。又不幸にも法的紛争が生じてしまった場合にどのような解決手段が考えられるかにも簡単に触れます。日常生活する民事上の事柄について、法的側面から考えることができるだけの基本的な知識と能力の取得を目標とします。</p>
全学共通科目群	社会	暮らしと経済	<p>【概要】</p> <p>経済学の基礎的概念を平易に理解することを講義の目的としたい。経済学でいう「資源配分」、「経済主体」の行動、「経済的豊かさ」の指標、消費経済、公共経済のあり方について講義する。また、戦後の日本経済の成長、金融危機、成熟社会における経済的諸問題を社会との関係で講義する。</p>
全学共通科目群	社会	市民社会と政治	<p>【概要】</p> <p>現代は、メディア等から国内外の政治に関する情報を受けつつも、国民の“政治不信”や“政治無関心”が叫ばれる時代である。しかし、政治は人間の行為から生まれたものであり、現在も有り続け、密接に我々の生活と関係している。そうした中で、政治は過去・現在においてどのように我々と関係し、役割を果たしてきたのであろうか。そこでこれらを、授業を通じて学びつつ、最終的には政治の将来や、どのようにひとりひとりが政治との関わりをもつかを学生自身に考えてもらいたい。</p>



授 業 科 目 の 概 要			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学 共通 科目 群	社会  社会の成り立ち	<p>【概要】</p> <p>この授業では、日本の社会で現実に行き起きているさまざまなできごとを取りあげながら、社会がどのような仕組みで成り立っているのかを考えていきます。実際に、社会で起きているさまざまな出来事、家族や地域社会、介護や福祉、犯罪や暴力、貧困と格差、政治や経済の問題を解説しながら、社会がどのように動いているのか、どのような構造になっているのかについて考えていきます。社会が見えにくい時代ですが、自分の生活を見直す中で、自分の身近なことが社会とつながっていることを理解してほしいと思います。家族や地域のことから、政治や経済のことまで幅広く扱います。その時々、時事の問題を取り上げながら、できるだけわかりやすく解説をし、社会をよりよく理解できるようにしていきます。社会がどのような仕組みで成り立っているのか、どのような構造になっているのかを理解する。今、現在の社会で起きている出来事に関して、その背景と原因を考えるとともに、それに関連する基本的な制度についての知識を習得し、常識ある社会人の育成をめざす。</p>	
全学 共通 科目 群	社会  高齢者と福祉	<p>【概要】</p> <p>年を重ねることの素晴らしさ。それを表現・実感できる社会とはどんな社会だろうか。すべての人が最後まで自分らしく生き続けるための条件整備の課題(福祉)とそれを促す価値観(哲学)が問われている。この講義では、加齢に伴う心身機能の低下や生活スタイルの変化についての理解を基礎としながら、高齢者福祉の制度の理想と現実、高齢者であっても社会運営の主人公であり続けられる新しい社会組織原理・老年文化をともに考える。高齢者の生活実態の特徴が把握できること。また、現状の高齢者福祉制度の概要が説明できること。以上2点を基本目標にして、さらに高齢者福祉の国際比較の視点を獲得すること。</p>	
全学 共通 科目 群	社会  国際事情	<p>【概要】</p> <p>グローバル時代の現代のビジネスでは、国内外の企業において、さまざまな国と文化出身の従業員や顧客に対応する異文化経営が必要である。それには各国の政治的・社会的・文化的事情に関する知識とそれに対応する能力が必要である。</p> <p>本授業では、異文化経営の基礎知識として世界の概況を地域別に学んだ後に、日本と関連のある世界の国々の事情を地域に分けて学ぶ。</p> <p>諸外国に関心をもち、国際事情に敏感な態度を身につけるよう努力して欲しい。</p>	
全学 共通 科目 群	社会  社会保障論	<p>【概要】</p> <p>私達の人生において、生活の安定と維持はきわめて大切なことであり、それを土台として、一人ひとりの生活が安心して送れることとなります。しかし、人生においては時に、思わぬ 災難、不幸に見舞われることがあります。そんな時に、社会保障制度があり、災難、災害等を最小限度に食い止め、人間として最低限度の生活を営めるように、様々な手段を尽くすこととなります。このように私達の一生の生活の中で、社会保障がどのような役割を果たしているのかを先ず学んで行きます。そのことを学ぶことによって、今の自分の生活、家族の生活、また将来、就職して社会人になった時に、社会保険がどのように活用され、利用できるのか分かります。社会保険がいかに身近な存在として、私達の生活と密着しているのかを理解できるものと思います。社会保険の目的、意義を理解する。日本の社会保険の中心である社会保険の種類と内容を学び、自分の生活とどのように関わっているかを理解する。そして、将来の日本の社会保険をどうすべきかを学ぶ。</p>	
全学 共通 科目 群	社会  社会と福祉	<p>【概要】</p> <p>「社会福祉」を成り立たせている「社会」における様々な現象に対応するシステムとしての福祉について歴史を追いながら考える。「社会福祉」という言葉は「社会」と「福祉」との合成語であって、「社会」を切り離れた「福祉」という言葉だけではあまり意味を持たない。「社会福祉」は社会における様々な事象に対応するために歴史的に作り出されてきた産物である。社会を構成しているのは実際にそこで生きている人間であり、社会について考えることは人間の営みである「生活」について考えることでもある。「福祉」とはそうした生きている人間や営まれている人間の生活における様々な課題にたいして機能するためのものである。「社会」についてそこで起きている様々な問題を考え、それへの対応施策として「福祉」を考えることが授業の目的である。社会、生活、人間、福祉について実際に起きている現象を題材にしながらかけてみたい。</p>	
全学 共通 科目 群	自然  健康と運動	<p>【概要】</p> <p>超高齢化社会を迎えて、健康に長生きすることは個人にとっても社会にとってもますます重要になっている。そして、そのためには運動が極めて大切であることが多くの科学的研究によって実証されている。本講義では運動と健康との関係について理解を深めるために、各ライフステージにおける運動の意義や生活習慣病予防のために必要な運動を中心に概説する。受講生諸君が近い将来、社会に出て活躍するためにはまず、自らの健康管理能力を身につける必要がある。そのためにはどのような運動をすべきか、また、適正な身体組成を身につけるためには何をすべきかといった、実践能力を身につけてもらうことを目的とした。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目群	自然 生活と環境	【概要】 私たちが取り巻く環境は、自然からの影響はもちろんのこと、時代的・社会的な影響を受けながら変化してきている。また、見方を変えたと私たちのライフスタイルの変化等が環境に影響を及ぼしているといえる。本講では、身近な生活における環境の現況とそこのニーズや課題について論じ、今後私たちが考え、取り組むべき事柄についての理解を深めることを目的とする。	
全学共通科目群	自然 自然と環境	【概要】 人は自然環境とともに生き、また、新たな人為的環境をつくり出しながら生活をしている。人為的環境は身体的・精神的快適性を私たちに与えてくれるが、反面、自然環境に負の影響を与えることもある。本講義では、人為的環境がもたらす地球環境の変化と、人間生活に与える人為的環境の効果、中でも衣環境の効果を中心に学習し、安全で快適な環境のあり方について一人一人が考えを確立する機会とする。1) 環境問題の現状を理解する。2) 環境問題にどのように対処していくか考え、実践する。	
全学共通科目群	自然 生命の科学	【概要】 私たちがその一員である生物は、地球上の気候・水圏環境と互いに影響を及ぼし合いながら進化を遂げ現在に至る。現代を生きる私たちにとって生命現象について基礎的な理解力をつけることの意味は大きい。授業では、生命の基本単位である細胞の構造、細胞の進化、細胞増殖と遺伝、酵素と代謝についての基本を学ぶ。授業毎の主題について基礎となる知識を習得し、細胞を単位として営まれている生命現象に理解を深め、生命と地球環境との関わりについて考えることの出来る力をつける。	
全学共通科目群	自然 生物学Ⅰ	【概要】 細胞は生物の基本的単位です。そこで、この講義では、最初に細胞の一般的構造を学び、次いで細胞の細胞膜、核、および種々の細胞小器官について個別にその構造と機能を学んでいきます。さらに、生命現象をささえる物質(アミノ酸・タンパク質、糖質、脂質など)についても学び、生化学的基礎を養っていきます。一方で、これらが私たちのくらしや私たちに自身とどのように関連するか、バイオ関連の身近な例や様々な話題を挙げて理解を助けます。細胞の基本的な構造と機能について形態的および生化学的レベルで理解できるようにする。さらに、生命現象を支える物質についての生化学的基礎を学ぶ。また、生命科学関連の身近な話題について説明できるようになる。	
全学共通科目群	自然 生物学Ⅱ	【概要】 この講義では、まず生命体を構成している物質について復習・確認し、続いてこれらの分子が生体内で何によって、どのように変換されるか、また、それらはどのような役割を果たしているかについて、生命の営みに対する科学的見方を深めることを目的としています。さらに、生物に特徴的な現象のうち、私たちの身近なことや私たち自身にかかわること、すなわち、遺伝子やゲノム、個体の発生などについて理解するための基本的知識について学ぶとともに、くらしの中に見出される生物学、遺伝子組換えなど、最近の話題も加えながらともに学んでいきます。生命体を構成している物質とそれらの代謝、遺伝子やゲノムについての基本的な知識を学び、ヒトの生体内で実際におこっている現象や最新の生命科学のトピックスなどを具体的に理解出来るようにする。同時に生命の営みに対する科学的見方を深めていく。	
全学共通科目群	自然 化学Ⅰ	【概要】 近年の科学技術の発展は目覚しく、多くの物質を生み出し、生活を便利に、かつ、快適にしてきました。従って、人々を取り囲む環境中にはさまざまな物質があります。私たちの体も物質からできており、日常生活は物質との相互作用の上で成り立っていると云えます。この講義では、身近な物質について、物質の成り立ちや性質、物質の変化に関する化学の基礎的な考え方や知識を学習し、専門分野の生化学、栄養学、生理学などの理解が助けられるようにします。この講義では原子や化学結合、分子量など物質の構造をとりあげ、化学の基本的な考え方や概念を理解する。また、化学変化に伴う物質変化、酸と塩基や酸化還元に関する反応の説明や、簡単な化学計算などができるようにする。	
全学共通科目群	自然 化学Ⅱ	【概要】 私たち人間のみならずあらゆる生物は、有機化合物が中心になって作られています。21世紀は生命科学が大発展をした世紀と言われ、多くの新しい学問分野が発達しました。人間の健康に関わる仕事を志す者にとって、私たち自身の生活をよりよいものにするためには、生物が示すさまざまな生命現象を、有機化合物の構造と機能を学習し、その知識に基づいて分子レベルで理解しようとするのが大切です。この講義では、有機化学の基礎的な知識と代表的な有機化合物について学びます。この講義では、有機化学一般の基礎知識を理解する。そして、その知識を基礎にして、日常生活に関係するものや生物体や食品を構成する代表的な有機化合物の構造と主な性質を理解できるようにする。	

授 業 科 目 の 概 要			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目群	自然 物理学	<p>【概要】 これは、高校で物理を学ばなかった、あるいは十分に学ばなかった学生のための授業である。勉強したからといって「お金になる」ものではないが、やれば必ず人生の財産になると気付くものである。“基礎”学習は、潜在能力を高めてくれるのである。予備知識は仮定しないが、なにして土台から順に“組み立てられていく”ものであるから、復習は必要である。それを支えるのは“やる気”だろう。高校で物理は暗記科目のようだったと思った人も多いだろうが、そうでないことを示すのが私の課題である。 まず見慣れた(耳慣れた)現象として、ドップラー効果を取り上げ“簡単な数学処理”で理解できることを実感してもらいたい。続いて力学及び流体力学についての話をする。数学的処理は少々難しいので、それにはあまり立ち入らずに学習する。</p>	
全学共通科目群	自然 数学	<p>【概要】 「何のために数学を勉強するのか」。それは「役に立つものだからある」と説明する人もいるが、実益を求めて講義で勉強すると、数学は、たいがい挫折する。御存じのとおり、わからないと頭が痛くなり、やる気がなくなるが、それを超えてわかってくると、何んともいえない爽快感があり“面白い”のである。結局、「山を超えると気持ちいい」という体験のために勉強するのである。 今回は、中学の連立方程式の解法を、現代数学的に書きなおしてみた。目新しい方法であるから、学習した後はきっと自慢できるものだと思う。指数及び三角関数は“知らない恥をかく”という種類のものであるから、高校でのことは忘れて、新しい気持ちで挑んでほしい。高校の授業とは、ちょっと違う展開の仕方である。</p>	
専門基礎科目群	学部共通科目 自然科学の基礎知識	<p>【概要】 大学生として必要な自然科学の知識を習得し、併せて、就職試験対策の学習をする。人文学部では、理系分野、自然科学分野の専門科目はあまり多くない。しかし、社会人としてそうした分野の知識は必要不可欠である。できる限り多くの人文学部生にこの授業を受講して教養豊かな社会人として巣立ってほしい。 教養豊かな社会人として理解しておくことが望ましい数学や自然科学(物理学、化学、生物学、地学)の基礎知識を身に付ける。</p>	
専門基礎科目群	学部共通科目 人文科学の基礎知識	<p>【概要】 「人文学(Humanism)」の伝統に連なる「一般教養(Liberal arts)」の修得を通じて社会人としての「自己形成」の端緒をつかむ。社会人、公務員、教員にふさわしい一般教養の基礎知識を身につける。 公務員試験、教員採用試験の教養試験の世界史、日本史、地理、思想、文学芸術、および時事の問題に対応できるようになる。</p>	
専門基礎科目群	学部共通科目 社会科学の基礎知識	<p>【概要】 「人文学(Humanism)」の伝統に連なる「一般教養(Liberal arts)」の修得を通じて社会人としての「自己形成」の端緒をつかむ。そのための一助として、民間企業就職試験、公務員試験、教員採用試験に出題が予想される一般教養問題のうち、特に政治(日本国憲法など)、経済(財政、金融など)、社会(社会保障、労働、環境など)にかかわる「社会科学」の問題に対応できるよう基礎知識を身につけ、さらには「時事問題」ということで、今何が問題となっているかを把握できるようになる。</p>	
専門基礎科目群	学部共通科目 仕事の世界	<p>【概要】 さまざまな職業・職種の人々の仕事ぶりをVTRやDVDによって実見しそのアウトライン、内容を研究することにより職業選択・キャリア形成へのきっかけとする。また政治、経済、社会、国際情勢などに関する基礎知識を踏まえ時事問題理解への一助としたい。そのため特に日本国憲法の基本原理、金融、財政、社会保障、国際政治、国際経済などの基本的な仕組みを理解し、現在問題になっていることの原因をさかのぼって把握できるようにしたい。</p>	

授 業 科 目 の 概 要				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目群	学部共通科目	生涯学習概論	<p>【概要】</p> <p>生涯学習及び社会教育の本質やその意義を理解し、生涯学習および社会教育に関する基礎的な能力を養う。</p> <p>生涯学習の歴史や政策動向、社会教育の歴史や法制度、具体的な事例など、多様な視点から、公教育としての学習権を保障する生涯学習に関する基礎的な知識を習得する。また、現代的課題についても適宜検討し、今後の生涯学習の展望を考える。</p>	
専門科目群	基幹科目	心理学基礎論Ⅰ	<p>【概要】</p> <p>心理学は、文字通り人間の心の働きを明らかにしようとする学問であるが、それは誰もが関心を寄せているきわめて身近な事柄であろう。日常的な意味での人の「心理」と、心理学が学問として扱う「心理」は、何がどう違うのだろうか。本講では、心理学の導入科目として、このような素朴な疑問に答えるための興味深い話題を紹介していく。</p>	
専門科目群	基幹科目	心理学基礎論Ⅱ	<p>【概要】</p> <p>本講義では、心理学が人の理解にどのように応用されているのかについて解説を行います。人が成長していくプロセス（発達心理学）や、人の知能や性格の捉え方（パーソナリティ心理学）、そして、人が行動を行うときの原動力となる動機づけ（学習心理学）などを扱います。さらに、集団が個人に与える影響（社会心理学）や人の現実適応のための防衛機制や、こころの病（臨床心理学）についても取り上げます。</p>	
専門科目群	基幹科目	心理学基礎実験	<p>【概要】</p> <p>統制された条件下で特定の変数の効果を検討する実証的な心理学的実験法の基礎を学ぶ。ミューラーヤーの錯視、大きさの恒常性、鏡像描写、語の記憶の各テーマについて、実験目的の設定、方法の選定、実験の実施、結果の分析・考察、実験レポートの作成を行い、実践的にトレーニングする。心理学実験に関する基礎的な方法論・考え方を修得する。それに加えて、実験の報告書を作成する能力を身につける。</p>	
専門科目群	基幹科目	心理学特殊実験	<p>【概要】</p> <p>心理学基礎実験で習得した実証的な心理学的実験法の理解と実践を発展させる。精神物理学測定法、反応時間、単純接触効果、ストループ効果の各テーマについて、実験目的の設定、方法の選定、実験の実施、結果の分析・考察、実験レポートの作成を行い、実践的にトレーニングする。心理学実験に関する方法論・考え方、報告書作成技能を修得する。</p>	
専門科目群	基幹科目	感覚・知覚心理学	<p>【概要】</p> <p>われわれ人間を含めた動物が環境内で適切に行動するためには、その環境の状態を正しく知ることが要件となる。これは一般に五感と呼ばれる働きを通じてなされるが、それらの仕組みや機能は驚くほど複雑で精巧である。本講では、人間にとって特に重要な視覚を中心に、感覚・知覚の基本的な性質を学ぶ。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	基幹科目 認知心理学	<p>【概要】</p> <p>心理学で「認知」という語は様々な意味で用いられるが、ここでは、知覚された環境情報を理解・解釈し、後の行動に役立てる一連の過程とする。そこには、理解、推論、記憶、連想など、人間特有の高次な精神作用が関わり、その過程は外的な刺激側の特徴(bottom-up要因)と認知主体(人)側の内的要因(top-down要因)の双方に影響される。本講では、そのような複雑な様相を呈する認知過程の諸相を論じることにより、たえず変化する環境に柔軟に向き合う人間の高い適応力を描き出す。</p>	
専門科目群	基幹科目 感情心理学	<p>【概要】</p> <p>感情は、情動、情緒などともいわれ、認知的過程、生理反応、主観的体験、行動的变化、表情表出、言語表出などを含む包括的な心理現象である。そのため、日常的にも行動に及ぼす影響がしばしば痛感される心理現象でありながら、実証的な心理学の領域においてすら様々な立場から多様な定義がなされ、未解明のテーマが多い研究対象である。本講義では、これまでの心理学的研究が提起してきた感情に関する知見を概説し、感情を科学的に理解するための基本的視点を示す。</p>	
専門科目群	基幹科目 教育心理学	<p>【概要】</p> <p>学校、地域社会、および家庭において子どもが直面している様々な問題・背景について心理学的など科学的な視座から合理的に理解する。教育者の立場として、子どもの健全な発達・成長および学びの機会を保障し、支援するための実践的な知識や応用可能な技能を習得する。さらには、子どもを指導する立場にある人の取り巻く状況などについても心理学的な観点から理解を深め、教師としてのあるべき姿について考察する。</p> <p>児童生徒の個性化・社会化に影響を及ぼす教育的な働きかけの意義を心理学的な理論や実証的研究成果から理解し、教育実践に活かそうとする。</p>	
専門科目群	基幹科目 発達心理学	<p>【概要】</p> <p>人は環境とかがかわることで、様々な心理的機能が変容していく。それは受胎から死にいたる時間のなかで継続的に生じ、人の心身における普遍性と個性を生み出していく。本講義では、発達を規定する諸側面について考えるとともに、各段階における個性の発現および発達のなつまつきや課題についても検討していく。</p> <p>現代社会における子育てや親子関係、自立といった問題について生涯発達の視点から考え、学校教育・福祉の分野で役立つような姿勢を培っていく。</p>	
専門科目群	基幹科目 適応の心理学	<p>【概要】</p> <p>人間を含むあらゆる動物は、遺伝、形態、生理、行動、内的な情報処理などの様々な次元において環境に適応すべく駆り立てられている存在としてとらえることができる。この授業では、広義の環境に対する人間の適応を論じる。まず、人間の適応に関する一般的な問題を論じ、適応に関する概念を整理した後、特に、近年興隆した進化心理学を中心に人間の行動特徴がどのような生物学的適応の背景をもつかを様々な適応課題の観点から考察する。</p>	
専門科目群	基幹科目 臨床心理学	<p>【概要】</p> <p>昨今、心の問題やさまざまな問題行動などが問題視されている。臨床心理学とは、それらの理解や解決に心理的要因が関与していると思われる種々の症状を示す個人や集団に対して、より適応した日常生活を送ることを導くために行われる心理学に関連する諸科学の知見と方法を用いて行われる専門的な援助の体系である。本科目では、臨床心理学の入門として、その基本的発想、臨床面接の進め方、臨床心理学の課題、証拠に基づく臨床心理学を中心に、臨床心理学の基本的知識を学ぶとともに、最新の臨床心理学について理解することを目的とする。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	基幹科目 パーソナリティ心理学	<p>【概要】 この講義では、さまざまな心理学領域と関連するパーソナリティ（性格）の基礎的な理論を紹介し、心理学においてパーソナリティがどのように研究されてきているのかを総括的に論じる。また、パーソナリティの諸理論を紹介すると同時に、実習的な課題を取り入れながら、心理学的な人間理解の発達や方法についての知識の獲得を目指す。パーソナリティと言う概念に関する基本的な知識を獲得し、測定のための方法を理解すること。さまざまなパーソナリティの理論に基づいて、個人差を理解・説明できるようになること。</p>	
専門科目群	基幹科目 社会心理学	<p>【概要】 社会心理学とは、個人と他者や社会との関係、すなわち社会はどのように形成されていくのか、個人はどのように社会の一員となり、その社会の文化や価値観を習得していくのか、といった問題を科学的に研究する領域である。そこでこの講義では、人の知覚、感情、行動が他者との関係でどのように影響されているかを、身近な体験と具体的な実験を通して考察する。</p>	
専門科目群	基幹科目 心理統計法Ⅰ	<p>【概要】 人間の意識、行動等のデータについて、統計処理の理論と具体的な技術を習得する。確率と統計に関する基礎的理解を深め、各種統計量、有意差検定、など統計学の基礎理論と実際の処理法を学ぶ。人間活動の様々なデータの分布に関する理解を重視して、統計処理の表層的な結果ばかりでなく、統計理論に基づく正確な解釈能力を育成する。</p>	
専門科目群	基幹科目 心理統計法Ⅱ	<p>【概要】 心理学の実証のために利用されている統計の基本を習得することにより、文献における統計結果の理解を可能とし、かつ自らも統計法を使用して心理学データを分析できるようにする。特に、心理統計法Ⅱでは、心理統計法Ⅰを踏まえて、差の検定としてt検定、カイ二乗検定、順位による検定を習得する。</p>	
専門科目群	基幹科目 心理統計法Ⅲ	<p>【概要】 心理統計法Ⅲでは、心理学の実証研究を行う際に必要となる統計的手法の基本的な技法および考え方について、分散分析、因子分析、回帰分析、古典的テスト理論というトピックを取り上げ、解説する。心理学の研究で利用される統計的手法の“考え方”あるいは“筋道”のより深い理解を目指す。これにより、データ分析における統計的手法の選択、指標の適切な解釈を行うことができるようにすることを目的とする。</p>	
専門科目群	基幹科目 心理学英文講読Ⅰ（基礎）	<p>【概要】 本講は、大学院進学希望者を中心とする英文講読である。講読Ⅰでは、比較的短いコラムなどを用いながら、これまでに学んだ文法の復習や語彙を増やすこと、また、語彙の知識のなかで不確かな部分を確認し、英語の基礎を着実に身につけることを目標に授業をすすめる。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	基幹科目 心理学英文講読Ⅱ (長文読解)	<p>【概要】 本講は、英文講読Ⅰを取った学生を中心に授業をすすめる。講読Ⅱでは、日米などの比較を通して、過去から現代にいたるそれぞれの文化を形成する歴史や、そうした文化が作り上げる人間の心理を学びながら、長文読解し、ひいては、外から見た日本にまで目を向けることを目標に授業をすすめる。</p>	
専門科目群	展開応用科目 心理学研究法Ⅰ	<p>【概要】 「心理学研究法Ⅰ」はⅠⅡを通し、卒業研究の遂行を目的として、実証系の心理学論文(ないし専門書)を読みこなして専門領域の知識を獲得し、得られた知識に基づいて実際に研究を計画・実施し、さらに論文としてまとめるための各種の技術を習得するための授業である。ここでは、心理学の方法論に関する様々な授業のトレーニングを踏まえて、実証的な心理学研究の方法に接近することになる。特に実証研究は、科学的な検証方法を背景とした研究手続きと結果の読みとりが論文の読解に大きなウエイトを占める。そこで心理学研究法Ⅰでは、卒業研究等において妥当な研究計画を立案することを念頭において、科学的な考え方を解説するとともに、様々な研究手法を含む具体的研究を紹介し、実際に即して研究の批判的な読みとり方をコーチする。</p>	
専門科目群	展開応用科目 心理学研究法Ⅱ	<p>【概要】 「心理学研究法Ⅰ」でのトレーニングを踏まえて、学生が自分自身で心理学研究を進めていくために必要な技能を身につけることを目的とする。そこで、心理学の各種の領域を念頭に、実験、調査、観察など、主要な研究方法に基づいて行われた実証データを紹介しながら、心理学研究の実際を概説する。そして、具体例を通じて、研究目的の設定、目的の追求に合致した研究計画、結果の分析、考察から結論の導き方を理解する。とくに卒業研究を行うにあたって不可欠となる実践的な知識(研究の設計、データ取得上の留意点、研究の倫理綱領)や解析技術など、研究遂行に関する様々な情報を提供する。具体的なデータ解析法の復習も授業内容に取り入れるので、授業中にしばしば具体的課題を行う。</p>	
専門科目群	展開応用科目 調査法Ⅰ (質問紙作成技法)	<p>【概要】 質問紙による調査の方法についての講義を行う。特に社会学的、心理学的調査法の基礎となる質問紙調査についての概要を説明することを目的とする。すなわち、卒論や演習等で実際に調査研究を行う際に必要となる社会・心理調査の質問紙作成を、その過程に沿って説明する。具体的には、調査対象者の抽出(サンプリング)、調査内容による回答形式の違い、質問文におけるワーディングの問題、および質問紙のレイアウト等の内容を中心に講義を行う。</p>	
専門科目群	展開応用科目 調査法Ⅱ (データ分析)	<p>【概要】 私たちの周りにある様々な社会事象と、それに関わる人間の意識を調べるための方法の一つである質問紙調査について実習する。具体的には、データの分析方法を実習する。これには分析で用いる統計法についての説明と、コンピュータの利用方法、SPSS (Statistics Package for Social Science) 言語の実習を含む。調査から得られたデータの処理、分析方法を修得する。</p>	
専門科目群	展開応用科目 実験心理学	<p>【概要】 心理学における考察の材料(データ)は、観察、面接、調査など様々な方法で得られるが、仮説検証のアプローチを採用する場合は主として実験法が用いられる。本講では、色彩心理学を題材とし、様々な測定を駆使した実験心理学的研究の実例を紹介していく。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	展開応用科目 動物心理学	<p>【概要】 この授業では、動物行動に関する様々な研究成果を紹介し、動物の「こころ」の理解に迫る。そこではまず、動物の進化と分類にはじまり、動物の「心」の理解に関する問題や重要概念を論じる。さらに、動物の知覚・認知、社会行動、婚姻制などについてこれまでの研究成果を紹介する。</p>	
専門科目群	展開応用科目 学習心理学	<p>【概要】 学習心理学とは行動の原因と結果の結びつきを知る学問である。心理学で用いられる学習とは学校の勉強のことだけを指す言葉ではなく、様々な知識、態度、価値観の変化まで含まれている。つまり、私たちが日常生活で何気なく行う動作一つを取っても学習の結果もたらされたものであるといっても過言ではない。本講義では、こうした我々の行動を規定している学習の仕組みと、その歴史的背景、そして、学習心理学の発展に深くかかわりのある動物たちの実験を紹介しながら講義を進めていく。 学習によってもたらされる行動の変化と、その背後にある仕組みを理解し、様々な場面で応用され役立てられていることを知る。</p>	
専門科目群	展開応用科目 生理心理学	<p>【概要】 生理心理学とは、生体反応計測や神経系への作用（破壊、薬物）による行動変容の観察によって、心的機能の解明を試みる研究領域である。本講義では、1) 歴史的背景と神経科学などの隣接諸科学との関わりと位置づけ、2) 心理機能に関連する生理学的基礎、3) 生理指標の測定原理および適用範囲、4) 認知、情動、臨床など様々な心理学の諸領域における生理指標の適用例の4点について解説し、生理心理学の特異性について理解することを目指す。</p>	
専門科目群	展開応用科目 ことばと心理	<p>【概要】 ことばそのものが持つ機能的な特長として、音声、文法、意味、発話行為が存在し、そうした機能を利用して、外界世界の認識やコミュニケーションといった役割を遂行している。本講義では、ことばの持つ特長について、言語心理学側面、認知科学的側面および言語哲学的側面などから考察する。 ことばが心理あるいは認知（認識）機能といかに深く結びついているのかをさまざまな側面から理解する。</p>	
専門科目群	展開応用科目 論理と心理	<p>【概要】 論理についての研究は、主に、哲学の分野（哲学的論理学）および数学の分野（数学基礎論）においてなされている。また、論理そのものに関しては、演繹論理と帰納論理の2つに大別され、演繹論理については、古典論理と非古典論理という2種類の論理に大別される。さらに非古典論理には直観主義論理、量子論理、様相論理、矛盾許容論理などが含まれている。 本講義では、なぜこのようにさまざまな「論理」が存在するのか、また、そうしたさまざまな論理が人間の心理や認知機能、認識機能とどのように結びついているのかについて考える。なお、授業は数学的な手法を利用し、記号を多用する。</p>	
専門科目群	展開応用科目 学校心理学	<p>【概要】 主に、学校という場での臨床心理学的支援について解説します。発達段階によって、子どもたちが抱える課題は異なり、また、保護者の方が抱える悩みや心配も違ってきます。主に、臨床心理学や発達心理学の視点から、学校における臨床心理学的支援の意義と難しさについて解説します。その際、学校という臨床現場の特殊性や、教員となど他職種との連携の重要性についても取り上げます。</p>	



授 業 科 目 の 概 要			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	展開応用科目 教育評価法	<p>【概要】 児童・生徒の学力・知能・人格理解について、教育活動の中で適切に評価・測定できる能力の養成を目的とする。測定対象の概念を明確にし、教育の流れの中で、診断的評価・形成的評価・総括的評価の意義を明らかにすると共に、絶対的評価と相対的評価の有用性、数量化の意義について概説する。その上で、評価に伴う問題点や留意点について検討する。 学力等について、教育活動の中で評価するための基本的な知識を身につけ、その方法について説明・実施できるようにすることを目標とする。</p>	
専門科目群	展開応用科目 障害児心理学	<p>【概要】 障害児の心理や特性は障害の種類や程度によって異なっている。したがって、その教育や療育も個別の視点が求められる。このことを踏まえ、障害を理解する観点から様々な障害についてその特性を学ぶ。また、多様な障害特性について理解を深めることにより、ノーマライゼーションの理念を培う。さらに、障害をもつことによって生じる様々な問題に対する基本的な対応について習得する。とりわけ、近年教育現場で指導のあり方が問われている軽度発達障害や発達障害に焦点を当て、問題行動の個別理解の仕方とその対応についても具体的に習得することを目指す。具体的な内容として、障害の概念、障害児の早期発見および早期療育、各障害特性の理解、発達障害・軽度発達障害の特性理解と具体的な支援計画および対応について、などを論じ、必要に応じて事例研究も紹介し、実践力につなげる。</p>	
専門科目群	展開応用科目 生涯発達心理学	<p>【概要】理念として老人を敬愛する(老人福祉法)だけではなく、実態的にも高齢者でなければ下せない判断や見識もある。流動知と結晶知の分類にあるように、人間は生涯にわたって発達し無類の境地を切り開いていく余地を残している。無用なエイジズムを排斥し、高齢者であっても、あるいは高齢者であるからこそ可能な「発達」の局面を明らかにする。他方、無縁死・漂流といった中高年期のアイデンティティ形成やライフアーク感についても家族関係論、産業心理学との関連で講義する。</p>	
専門科目群	展開応用科目 カウンセリング基礎	<p>【概要】 本科目では、カウンセリングの理論的背景やそれらに伴う基本的技法について学ぶことを目的としている。また、理論や技法の他に実践場面で必要となるカウンセラーの態度やカウンセリングを実施するまでに必要となるラポールの形成や心理アセスメントといった過程についても理解することを目的としている。それらを身につけることで、より良いカウンセリングとは何かを自分なりに考え説明できるようになることをねらいとする。</p>	
専門科目群	展開応用科目 カウンセリング応用	<p>【概要】 本科目では、カウンセリングの基礎を復習し、カウンセリング実践における倫理や技法について学ぶことを目的としている。また、認知行動療法やその他さまざまな心理療法に基づくカウンセリング実践の基本的知識を習得し、心理的援助の技法と方法論を理解することも目的としている。最終的には、紙上相談といった形でのカウンセリング実習を行い、カウンセリングを疑似体験することで客観的にカウンセリングを理解することねらいとする。</p>	
専門科目群	展開応用科目 心理診断法Ⅰ(質問紙法)	<p>【概要】 この授業では、基本的な心理検査を多種実習します。それぞれの心理検査について、自分自身のデータを解釈し、レポートとして提出してもらいます。基本的な心理検査の実施・解釈ができることを目指すとともに、レポート作成を通じて、自己理解を深めてもらいたいと考えています。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群 展開応用科目	心理診断法Ⅱ (投影法)	<p>【概要】 投影法は、臨床現場でもよく利用される心理検査ですが、その解釈には専門的な知識が必要とされます。この授業では、投影法の代表的な検査である、ロールシャッハ・テスト、SCT (文章完成法)、描画法を中心に解説し、各々の検査特性や実施法、解釈法の基礎について理解することを目指します。</p>	
専門科目群 展開応用科目	心理療法論	<p>【概要】 心理療法の過程ではどのようなことが起こっているのかを、初回面接から終結までを追いながら解説していきます。その際、治療者としての倫理、治療者の重要性についても取り上げます。さらに、特に精神分析理論から、無意識の在り様からみた、こころの病の理解についても解説を行います。</p>	
専門科目群 展開応用科目	集団心理学 (グループダイナミクス)	<p>【概要】 グループ・ダイナミクスは、グループ (集合体=人々とその物的・制度的環境の総体) の動態 (集合流) を、フィールドの当事者との協同的实践を通じて研究する人間科学 (自然科学に対する、もう一つの科学) である。本講義では、以下の流れに沿って、グループ・ダイナミクスのわかりやすい入門的解説を行う。</p>	
専門科目群 展開応用科目	対人関係論	<p>【概要】 本科目は、学ぶことへの動機づけを高めるために、学習の基礎となる対人関係力を身に付けることを目的とする。対人関係力を身につけるためには、人間関係の基礎的理論を理解すること、また自己理解を深めること、主張スキルを高めることが求められる。そのために、講義や実習を通じてそれらの点の向上を図ることを目的とする。</p>	
専門科目群 展開応用科目	産業・組織心理学	<p>【概要】 多くの人は何らかの職業に就き、組織に参入することになる。このため、産業・組織におけるさまざまな心理学的知見について、学んでおくことは有用である。こういった視点を持つことで、実際に働き始めた後の組織現象の理解につながると考えられるからである。本講義では産業・組織について心理学的知見から検討し、理解を深めることを目的とする。</p>	
専門科目群 展開応用科目	環境心理学	<p>【概要】 本講義では、地域からグローバルなレベルまでの多様な環境についての認知・態度・行動について、環境問題を再現したゲームシミュレーションにより理論と体験の両面から環境問題を分析しながら学ぶ。あわせて環境保全に対して心理学はどのような貢献ができるのかを考える。公益と私益が対立する環境問題として身近な、ごみ問題の事例を主にとりあげる。本授業に関わるタイムリーな社会的イベントに関連した他の環境問題も適宜扱う。 環境心理学の理論と実際についての基礎的知識を学習し、あわせてゲーミングシミュレーションへの参加によって、現実の問題と理論との関連についても理解する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群 展開応用科目	応用心理学	<p>【概要】 心理学には様々な分野が存在する。本講義では、「心理学」について取り上げる。多くの学生の関心を集め、人気の高い心理学であるが、世間一般では、少々誤解されている学問であると言える。例えば、ゲーム感覚の本や占いなどといった興味本位のものや、また心理学と聞くとカウンセリングなどの心理臨床関係の研究や仕事と結び付ける人が多い。本講義を通して、心理学が身近に溢れていることを感じ、社会の問題解決に対して大きな役割を担っていることを理解してもらいたい。</p> <p>1. 応用心理学が幅広い研究領域から成り、また私たちの身近にあることを知る。2. 社会に対し心理学が果たしている役割を理解する。</p>	
専門科目群 展開応用科目	コミュニティ心理学	<p>【概要】人々の地域での生活意識や心理を”community-basedなもの”と”community-orientedなもの”に分類しながら、人々の共同・協同あるいは絆意識の形成過程を学習する。community-basedとは生まれおちた家族や地域社会であり、「故郷」と呼んだり「しがらみ」と呼んだりさまざまな受け止め方がある。後者のcommunity-orientedは、communityを離れて生きる人々の「心のふるさと」であり、多くの縁のなかの結合原理の一つでもある。講義では、こうした類型学を、生活の多くをcommunityに依拠する児童、障がい者、高齢者あるいは女性の視点と交差させ、現代のコミュニティを深層からとらえ返す。</p>	
専門科目群 展開応用科目	文化心理学	<p>【概要】 文化心理学では、ひとが文化の中に生き、文化の中で暮らしていく中で、どのような「こころのしくみ」が形成され、維持・変更されていくのかを検討する。特に、ひとの行動に影響を与える「心の文化差」について検討する。こころを理解する上で文化がどのような役割を担っているのかを理解する。こころが文化的にどのように多様であるのかを理解する。</p>	
専門科目群 展開応用科目	家族心理学	<p>【概要】 家族の成り立ちや家族の歴史から、現代の家族が抱える課題について解説を進めていきます。その際、とくに親子関係に注目し、親の子どもをめぐる思いや、親にとっての子どもの価値についても取り上げます。さらに、社会における子育て支援の歴史や現状、課題についても触れていきます。</p> <p>現代社会における家族が抱える課題について、理解することを目標とします。</p>	
専門科目群 展開応用科目	コミュニケーション心理学	<p>【概要】 現代社会において、コミュニケーション能力は社会生活を送るうえでさまざまな場面で求められる。しかし、そもそもコミュニケーション能力が高い人、低い人とは、どのような人なのであろうか？そうでない人とは何が違うのだろうか？本講義では、対人関係の技術とも呼ばれる「ソーシャルスキル」について学ぶとともに、簡単な演習を通して、ソーシャルスキルの習得を目指す。また、その背景にはこれらの理論の基礎となるさまざまな研究があり、それらについても紹介する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	展開応用科目	行動観察法	<p><b>【概要】</b> 我々は、日常でただ事象を“見る”だけでなく、“観察する”ことから多くのことを学ぶことができる。観察は事象を注意深く見きわめることであり、基本的な資料収集の手段である。一般社会においても、対象となるあらゆる行動・事象を、さまざまな角度から捉えることが出来る視点を養うことが必要である。この授業では、人間や動物の行動を観察し、記録・分析していくことで、ある行動の規則性や特徴、なぜそのような行動が生じたのかという因果関係などを明らかにしていく、心理学における観察法の基本を、実際に体験しながら学ぶことを目的とする。具体的には、観察法の意義や特性を理解するとともに、心理学における他の研究法との違いを理解し、観察研究の計画立案、実施、まとめが出来るようになることを目的とする。</p> <p>実習を行なう中で、それぞれの観察形態にふさわしい観察テーマ選びが出来るようになるとともに、自分たちが行なった観察の方法・結果を、他者にわかり易くプレゼンテーション出来るようになることを目標とする。最終的には、卒業研究や一般社会におけるマーケティングなど、それぞれの興味・対象・研究目的に沿った適切な場面で、適切な観察形態や記述形態を用いることが出来るようになることを目標とする。</p>
専門科目群	展開応用科目	面接法	<p><b>【概要】</b> 心理学における面接法は、大きく臨床的面接と調査的面接の2つに分類される。本科目では、実習を通して臨床的面接および調査的面接の違いを理解することを目的とする。また、それぞれがテーマに合わせて調査的面接を企画・実施し、結果をまとめることができるようになることをねらいとする。</p>
専門科目群	展開応用科目	医学概論	<p><b>【概要】</b> 「臨床医学概論」においては、疾病に関する原因、病態、診断と治療及び予防に関する基本を学び、疾病と人体の機能と構造との関わりを理解する。この授業により、傷病者をケアするに当たって求められる医学的基礎を学ぶ。</p> <p>本授業の到達目標としては、以下の点が挙げられる：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床医学で使われる用語を含む自然科学用語に習熟する。</li> <li>・日常的な医療の現場で遭遇することが多い疾患の概念と病態を理解する。</li> <li>・疾病のリスクを理解し、健康増進に必要な知識を習得する。</li> <li>・基本的な疾病治療の概念を理解する。</li> </ul>
専門科目群	展開応用科目	健康心理学	<p><b>【概要】</b> 本講義では、健康心理学がどのような学問・研究領域であるのかを説明し、健康心理学における基礎的知識や実践方法について紹介する。それらの知識や実践方法を理解し、応用することによって健康教育の方法論について自ら考え表現することができるようになることを目的とする。</p>
専門科目群	展開応用科目	社会調査論	<p><b>【概要】</b> 社会調査の意義と諸類型に関する基本的事項を解説する。社会調査史、社会調査の目的、調査方法論、調査倫理、調査の種類と実例、量的調査と質的調査、統計的調査と事例研究法、国勢調査と官庁統計、学術調査、世論調査、マーケティング・リサーチなどのほか、調査票調査やフィールドワークなど、資料やデータの収集から分析までの諸過程に関する基礎的事項を含む。</p>

授 業 科 目 の 概 要			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群 展開応用科目	調査演習Ⅰ	<p>【概要】 調査の企画から報告書の作成までにまたがる社会調査の全過程をひととおり実習を通じて体験的に学習する。特に、調査演習Ⅰでは、調査の企画、仮説構成、調査項目の設定、質問文・調査票の作成、対象者・地域の選定をおこなう。本演習の目的は、調査の立案から報告書の作成まで実習をおこない、調査の技法を習得することである。</p>	
専門科目群 展開応用科目	調査演習Ⅱ	<p>【概要】 調査の企画から報告書の作成までにまたがる社会調査の全過程をひととおり実習を通じて体験的に学習する。特に、調査演習Ⅱでは、調査演習Ⅰを踏まえ、調査の実施（調査票の配布・回収、面接）、インタビューなどのフィールドワーク、集計、分析、仮説検証、報告書の作成をおこなう。本演習の目的は、調査の立案から報告書の作成まで実習をおこない、調査の技法を習得する。</p>	
演習科目群 演習科目	基礎演習Ⅰ	<p>【概要】 基礎演習Ⅰ・Ⅱは、大学での学習への導入をはかるとともに学習の基礎作りを行い、段階的に、より高度で専門的な学習へ導いていくための授業である。内容には、ノートの取り方、テキストの読み方、図書館やインターネットを利用した文献検索・情報検索、レポートの基本的な書き方、コンピュータ・プレゼンテーションを用いた口頭発表の方法などが含まれる。基礎演習Ⅰでは特に、心理学科での学習の基礎を養成するため、大学生活への円滑な移行を支援するとともに学習の基本となるトレーニングを行う。</p>	
演習科目群 演習科目	基礎演習Ⅱ	<p>【概要】 基礎演習Ⅰ・Ⅱは、大学での学習への導入をはかるとともに学習の基礎作りを行い、段階的に、より高度で専門的な学習へ導いていくための授業である。内容には、ノートの取り方、テキストの読み方、図書館やインターネットを利用した文献検索・情報検索、レポートの基本的な書き方、コンピュータ・プレゼンテーションを用いた口頭発表の方法などが含まれる。基礎演習Ⅱでは特に、基礎演習Ⅰで習得したことを基礎として、よりレベルの高い文書作成、情報検索をグループおよび個人で実施するとともに、論文・レポートの口頭発表（プレゼンテーション）をおこなう。</p>	
演習科目群 演習科目	基礎演習Ⅲ	<p>【概要】 基礎演習Ⅲ・Ⅳは、総合演習において卒業研究を実施する前段階として、研究へのモチベーションを高めつつ、研究的な問題意識を醸成し、研究に必要な考え方やアプローチの方法を段階的に習得する授業である。基礎演習Ⅲでは、心理学関連領域におけるさまざまな問題に向かうモチベーションの養成、基本的な思考法を身につけるための様々な課題を実施する。そこでは、心理学的な問題の明確化、検討方法の策定、先行研究の読解などに関するさまざまな課題が用意される。これらの課題にチャレンジする中で、受講生は基礎演習Ⅰ・Ⅱの学習を基礎としつつ「こころ」の研究の入り口に立つとともに、報告書の作成、口頭発表、討論の技術をさらに学ぶことになる。なお、基礎演習Ⅰ・Ⅱと同様、授業は合同で行われる場合もある。</p>	
演習科目群 演習科目	基礎演習Ⅳ	<p>【概要】 心理学関連領域における問題意識の明確化、基本的な思考法をさらに習得するための様々な課題を実施する。そこでは、心理学的な問題の把握、研究方法の検討、先行研究の読解、実証データの読み取り、結論の導出などに関するさまざまな課題が用意される。これらの課題にチャレンジする中で、受講生は基礎演習Ⅲの学習を基礎として、心理学研究への理解を深めるとともに、卒業研究を念頭においた研究の方法、それに付随するさまざまなスキルを習得する。なお、基礎演習Ⅰ～Ⅲ同様、授業は合同で行われる場合もある。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
演習科目群	演習科目 総合演習Ⅰ	<p>【概要】 総合演習は、ゼミ担当教員の緊密な指導の下、心理学を中心とする「こころ」を対象としたテーマについて、卒業研究等の作成を目標に総合的な学習を進める授業である。総合演習Ⅰでは、主に各ゼミ担当者の専門領域を中心として、「こころ」の理解について先行研究の知見とアプローチ方法を学んでいく。心理学に関する基本的な授業、心理学の方法論を学ぶ授業に加え、各ゼミ担当者の専門領域に関連する授業をできるだけ履修しておくこと。</p>	
演習科目群	演習科目 総合演習Ⅱ	<p>【概要】 総合演習は、ゼミ担当教員の緊密な指導の下、心理学を中心とする「こころ」を対象としたテーマについて、卒業研究等の作成を目標に総合的な学習を進める授業である。総合演習Ⅱでは、「こころ」に関するテーマを設定して研究を開始する。総合演習Ⅰと同様、心理学に関する基本的な授業、心理学の方法論を学ぶ授業に加え、各ゼミ担当者の専門領域に関連する授業をできるだけ履修しておくこと。</p>	
演習科目群	演習科目 総合演習Ⅲ	<p>【概要】 総合演習は、ゼミ担当教員の緊密な指導の下、心理学を中心とする「こころ」を対象としたテーマについて、卒業研究等の作成を目標に総合的な学習を進める授業である。総合演習Ⅲでは、総合演習ⅠおよびⅡをふまえ、「こころ」に関する自身の研究テーマについて継続して卒業研究を行い、その成果を卒業論文としてまとめることを目的とする。総合演習ⅠおよびⅡと同様、心理学に関する基本的な授業、心理学の方法論を学ぶ授業に加え、各ゼミ担当者の専門領域に関連する授業をできるだけ履修しておくこと。</p>	
演習科目群	演習科目 総合演習Ⅳ	<p>【概要】 総合演習は、ゼミ担当教員の緊密な指導の下、心理学を中心とする「こころ」を対象としたテーマについて、卒業研究等の作成を目標に総合的な学習を進める授業である。総合演習Ⅳでは、総合演習Ⅰ～Ⅲをふまえ、「こころ」に関する自身の研究テーマについて継続して卒業研究を行い、その成果を卒業論文として完成することを目的とする。また、卒業論文提出後は、卒業研究発表会にむけた準備作業を実施する。総合演習Ⅰ～Ⅲと同様、心理学に関する基本的な授業、心理学の方法論を学ぶ授業に加え、各ゼミ担当者の専門領域に関連する授業をできるだけ履修しておくこと。</p>	
資格関連科目群	博物館概論	<p>【概要】 生涯学習が重視される現代社会において、博物館及び学芸員がどのような働きをし、どのような役割を担うべきかを学ぶ。 博物館の定義と歴史、『博物館法』の理解、博物館及び学芸員の役割、博物館の種類と歴史、現代の博物館の諸問題と課題を学ぶ。</p>	
資格関連科目群	博物館経営論	<p>【概要】 博物館の形態面と活動面における適切な管理・運営について理解し、博物館経営（ミュージアムマネジメント）に関する基礎的能力を養う。 博物館の経営基盤、博物館の経営、博物館における連携について、外国の例を織り交ぜながら、美術館の実例を中心に講ずる。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
資格関連科目群	博物館資料論	<p>【概要】 博物館資料の種類や分類、管理方法についての知識や理解を深め、博物館における実践に必要な基礎的な知識を修得することを目標とする。 博物館が収蔵する資料は、各館を特徴づけるものであり、展示をはじめとするあらゆる博物館活動の基本になる。この授業では、博物館にとっての資料の意味と意義を理解し、その分類や収集、管理、活用についての理論と方法について基礎知識を養う。</p>	
資格関連科目群	博物館資料保存論	<p>【概要】 博物館における資料の保存の意味と意義を理解し、その取り扱いや展示環境・収蔵環境についての基礎的な知識と能力を習得する。 資料を保管・保存し、後世に伝えることは、資料の展示と並んで博物館の重要な使命である。つまり博物館の活動には、資料の劣化を必然的に伴う展示と、保存という相反する行為が包摂されている。 この授業では、博物館における資料保存の意味と役割を学び、こうした矛盾をはらんだ博物館の業務の中で貴重な資料をできる限り良好な状態で保存し、且つ活用していくために必要となる基礎知識を身につける。</p>	
資格関連科目群	博物館展示論	<p>【概要】 美術館・博物館における展示の意義を理解し、その理論や方法論を学ぶ。そして博物館における展示の機能について基礎的な知識を習得する。 美術館・博物館にとって展示は、全活動の集大成ともいえる重要な要素である。「モノ」を見せて伝えるという活動は、美術館・博物館ならではの大きな特徴であり、資料の収集や調査・研究活動の成果を効果的に伝達することが求められるのはいうまでもない。 この授業では、展示の意義を理解するとともに、その理論や方法論を学び、博物館における展示の機能について基礎的な知識を習得する。</p>	
資格関連科目群	博物館教育論	<p>【概要】 この授業では、博物館における教育活動に関する理解を深め、博物館の教育活動を行うに必要な理論面、実践面における基礎的な能力を養うことを目指す。 博物館が担う教育的役割には、学校教育やその他の社会教育施設における教育活動とは異なる独自の側面がある。生涯学習が広がる昨今、博物館にはそうした役割もますます求められるようになってきている。 この授業では、美術館・博物館が果たす教育的役割を理解し、実践に必要な基礎的な知識・能力を身につける。</p>	
資格関連科目群	博物館情報・メディア論	<p>【概要】 博物館における情報の意義と活用方法及び情報発信の課題等について理解し、博物館の情報の提供と活用等に関する基礎的な能力を養う。 博物館における情報・メディアの意義、博物館情報・メディアの理論、博物館における情報発信、博物館と知的財産について、美術館の実例を中心に講ずる。</p>	
資格関連科目群	博物館実習Ⅰ(見学実習)	<p>【概要】 東海地方および東京の美術館・博物館を見学し、実際の博物館活動を体験する。 美術館・博物館の見学を主体とし、見学前に事前予習、見学後に討論を行う。なお、見学館は展示内容などにより変更されることがある。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
資格関連科目群	博物館実習Ⅱ (学内実習)	<p>【概要】</p> <p>学芸員が実際に博物館で働く際の実務を身につける。博物館資料の基本的な取り扱いを身につけ、資料の調査、展覧会の企画立案、ポスター・ちらしの作成、図録の作成などを体験する。</p>	
資格関連科目群	博物館実習Ⅲ (館園実習)	<p>【概要】</p> <p>博物館の現場において学芸員の実務を身につけ、博物館におけるさまざまな活動を体験する。博物館の現場において、資料の取り扱い、展示、広報普及活動など学芸員の実務を身につける。</p>	
資格関連科目群	日本文化と文化財	<p>【概要】</p> <p>日本文化のあり方を具体的に示すものとして文化財という概念がある。この講義では、日本文化と文化財のあり方を、徳川美術館の収蔵品を文化財としてとらえ、さまざまな角度から考えていく。</p> <p>『文化財保護法』を中心とした文化財の概念を学び、続いて徳川美術館のさまざまな収蔵品を、ビデオを見ながら視覚的に学び、平安時代から江戸時代までの日本文化と文化財の関係を学ぶ。徳川美術館の展示も見学する。</p>	
資格関連科目群	日本美術史	<p>【概要】</p> <p>日本文化のなかに大きな位置を占めている美術は、世界中から芸術性を認められており、具体的な作品を学びながら日本美術の特色や歴史的展開を学ぶ。</p> <p>始めに、美術の定義、日本美術の分野、時代区分、文化財としての概念など基礎を学び、続いて原始時代から江戸時代までの代表作を分野別に学ぶ。可能な限り近隣の美術館の展示を見学する。</p>	
資格関連科目群	日本考古学	<p>【概要】</p> <p>1、考古学の理論及び方法論について、その概要を把握する。</p> <p>2、考古学の成果が、現代に生きる我々にとっての指針でもあることを会得する。</p> <p>3、陶磁器生産の歴史を通して、東海地域の「ものづくり」の伝統を理解する。</p> <p>考古学は、発掘調査という手段によって、地中に埋蔵されている「遺跡」「遺物」の実態を明らかにし、我々の先人の生活史をたどる学問である。その考古学では「いつ作られ、使われ、そして捨てられたか」という「時」の概念、「どこでだれが作り、使い、そして捨てたか」という「場」の概念が重要視される。</p> <p>このような「時」と「場」を重要な概念とする考古学にとって、「窯業遺跡」(かまあと)と「陶磁器」(やきもの)は、得がたい遺跡・遺物である。</p> <p>一方、愛知県・岐阜県を中心としたこの東海地域は、古くから陶磁器生産が活発に行われてきており、その伝統は現代に受け継がれている。</p> <p>講義では、わが国の陶磁器生産の歴史、なかでも東海地域のやきものづくりの流れに対象を絞って解説し、併せて学問としての考古学の基礎的な方法論、到達点について紹介していく。</p>	
資格関連科目群	図書館概論	<p>【概要】</p> <p>本講義では、「図書館」を人間の知的活動の成果を集積し伝達する情報流通のための社会的なシステムととらえる。まず史的観点から図書館の意義と機能を概説する。図書館は古代より人類の知的活動の成果をさまざまな形態の情報メディアとして受け入れ蓄積、保存する場として機能してきたことを理解する。次に図書館で扱う資料、様々な形態のメディア、デジタル情報資源について、その特徴や機能を理解するとともに、それらの情報メディアの収集、保存、修復などの図書館活動について知識を得る。さらに多様な図書館を紹介していくので館種ごと、地域ごとの図書館の特性、利用者、サービスの特徴などについて見識を広める。また人間の情報探索行動、情報ニーズ、情報伝達、情報流通についてもひろく理解する。現代の情報環境における図書館について、特に電子出版、電子書籍、デジタルジャーナルとの関わりと可能性について考察を深めていく。</p> <p>(1) 図書館の意義や役割について理解を深める。(2) 図書館についての知識を身につけると同時に、図書館をうまく使いこなすことができるようにする。(3) 図書館資料、様々な情報メディアについて知識を身につける。(4) 現代の図書館をとりまく情報環境について理解する。</p>	



授 業 科 目 の 概 要			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
資格関連科目群	図書館制度・経営論	<p>【概要】</p> <p>図書館法を中心に論じ、非営利組織という観点から図書館経営に触れ、その制度と法律・関連法を扱う。公共図書館に焦点を当て、実例をあげながら、図書館運営上の諸問題、例えば民営化、司書の専門職制、地域サービス、図書館の経営評価等を、図書館制度・経営論として論述する。</p> <p>図書館制度や経営に関係する法律を理解し、図書館経営の意義、公立図書館設置根拠と自治体行政、図書館の組織・管理・運営、図書館長・図書館員の責務及び養成・研修、図書館サービス計画の意義と方法、図書館の施設・設備・備品、類縁機関との連携・協力について理解する。これらを理解したうえで、現在図書館がおかれている状況と新しい図書館像を考える。</p>	
資格関連科目群	情報技術論	<p>【概要】</p> <p>現代社会における情報の伝達・流通・活用の手法は、情報通信技術とコンピュータ機器の急速な発展と普及と共に多様に変化している。さらにネットワークや電子資料なども重要性を増している。本講義では、情報の表現・伝達方法である文字・画像情報を中心に、記録媒体である情報メディアおよびそれらを取り扱う多様な情報機器の歴史、種類、特性、機能、利用法、等について概説し、様々な情報サービスにおける導入・活用の実例を示しながら解説する。</p> <p>図書館などの情報サービスにおける情報技術の活用に必要な基礎知識を習得し、多様な実践に対応しうる見識を身につける。コンピュータやネットワーク、電子資料など多様に進歩する情報技術についての知識を深めていく。</p>	
資格関連科目群	図書館サービス概論	<p>【概要】</p> <p>図書館サービスの理念、特質、方法を知り、各種サービスの特質をふまえて、現代社会で活用される図書館サービスを概説していく。図書館サービスの構造、図書館の活動内容について解説する。サービスの展開について、史的観点からとらえて解説し、現在の図書館活動については、ニュースや新聞記事なども見ながら、実際に図書館が直面するさまざまな問題について考察を深める。</p> <p>図書館サービスの理念、特質、方法に関して理解する。利用者の多様性に応じることが出来るサービスとは何かを考察する。図書館サービスをするにあたって著作権の理解、対人コミュニケーション、地域社会との連携などの理解を深める。</p>	
資格関連科目群	情報サービス論	<p>【概要】</p> <p>図書館における情報サービスの意義とあり方について学ぶ。情報サービスの種類と方法について理解を深め、サービスの多様な展開と可能性について探っていく。また情報サービスを取巻く情報環境への対応とデジタル情報資源を含む情報源の利用について多面的に論じる。さらに、図書館利用者の情報ニーズ、情報探索行動を理解するとともに、利用者の情報リテラシー育成を目指したサービス活動の可能性について検討していく。</p> <p>(1) 図書館における情報サービスの意義を理解する。(2) 情報サービスを史的観点からとらえ、さらに新たな情報環境におけるサービスの今後を展望できる力をつける。(3) 情報サービスの種類・方法など基礎的知識を習得する。(4) 多様な情報環境に適応し、多様なニーズに応える適切な情報サービスを考案し実行する能力を獲得する。</p>	
資格関連科目群	児童サービス論	<p>【概要】</p> <p>こどもの発達段階での読書の役割、児童サービスの意義、サービスのあり方、方法論について解説する。児童サービスの史的変遷および日本における現状を概説し、現在の児童サービスの課題を考察していく。サービスの対象となる年齢別の利用者群の特徴や世代ごとの興味について、児童サービスで提供する資料について、他の機関や地域との連携について解説する。児童サービスの行事(お話し会)の立案やそのためのブックリストの作成をする。</p> <p>図書館が「こどもと本や情報メディアとの出会いの場」となるような図書館環境とサービスのプログラム作りのための知識の獲得を目標とする。そのために、まず日本における児童図書館の現状について、公共図書館で行われるサービスを中心に、児童サービスの意義、サービスのあり方、方法論について理解を深める。</p>	
資格関連科目群	情報サービス演習Ⅰ	<p>【概要】</p> <p>レファレンス質問として図書館に寄せられる多様な情報ニーズについて、主題内容を分析し、主題グループ別に適切な情報源を選択し、迅速な情報収集と情報の評価を行う。課題の実施によって各主題分野の主要な情報源とその利用法について知識と技術を身につける。また、特定の主題に関して有用なレファレンス資料またはレフェラル資料の作成を企画、作成することによって総合的な情報収集と評価・利用・組織化の力を身につける。</p> <p>情報ニーズを的確に把握し、求められる情報や知識の主題分析能力を身につける。情報ニーズとしてよせられる様々な課題を想定し、その問題解決を通して適切な情報源の選択と利用、情報の評価能力を身につける。また、情報ニーズに応じた自館作成ツールを想定し、情報源の作成を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
資格関連科目群	情報サービス演習Ⅱ	<p>【概要】 図書館での情報サービスにおいては、利用者が求める情報を適切に把握し、適切なツールを用いて情報を探し提供する能力と技能が必要となる。本講義では、基礎科目で学んだ内容を元に、主にコンピュータを操作しデジタル情報源を用いる情報検索の演習を行う。演習内容を通じて、情報検索技術や情報源の評価技能を身につけ、多様な情報要求に対応できる能力と技能を習得することを目的とする。</p> <p>情報サービス提供者である図書館員にとって必要な、「情報専門家」として幅広い主題に対応できる情報検索技術を習得する。その上で、図書館員としても一般的な情報リテラシー能力としても重要な、情報の評価能力（情報内容の判断）および情報発信能力（回答の作成・提供）を向上させることを目標とする。</p>	
資格関連科目群	図書館情報資源概論	<p>【概要】 現代の図書館が取り扱う情報資源の種類と特性、図書館サービスにおける情報資源の意義と役割を、その成り立ちや扱う分野、組織化等の観点から学ぶ。</p> <p>あらゆる図書館サービスの土台となる図書館資料の意義と役割について、基礎的な知識を身につけることを目的とする。様々な情報資源の種類と特性、図書館サービスにおける意義と役割を学ぶことで、図書館サービスの展開や実践に必要な知識を身につけ、多様な図書館サービスや新しい図書館サービス展開に寄与できる知識を身につけることを目標とする。</p>	
資格関連科目群	情報資源組織論	<p>【概要】 多くの教と種類がある図書館資料（蔵書・コレクション）の効率的な利用には、一定の規則に基づく組織的な整理が不可欠である。図書館が行うこの“資料の物理的特徴や内容の分析、および正確な記録の作成”である資料組織化に関する基礎的な知識を身につけ、実践に備えることを目的とする。</p> <p>図書館における二大サービスの一つ、テクニカル・サービスの中核となる情報資源の「組織化」について、多様な方法を学び、演習科目のための基礎知識を学習する。さらに図書館のみならず、情報を活用するために必要な情報の整理・分析の基本的な考え方を学ぶことにより、情報拠点としての図書館の役割をも考察する力を身につけることを目標とする。</p>	
資格関連科目群	情報資源組織演習Ⅰ	<p>【概要】 図書館が取り扱う情報資源の効率的な利用のために不可欠な組織化は、複雑な手法と規程を持っている。実際に図書館で利用されている様々な組織化の手法、記述目録法の具体的内容を学び、組織化作業の演習を通して、実務に必要な知識と技能を習得することを目的とする。</p> <p>「情報資源組織論」で身につけた知識を実践に結びつけ、必要な知識と技能を習得する。主に、日本国内における和図書を対象とする目録作成のうち、書誌記述の一連の情報資源の組織化作業の基本的内容を体験し、自力での目録データ作成が可能な知識と技能を身につけることを目標とする。</p>	
資格関連科目群	情報資源組織演習Ⅱ	<p>【概要】 図書館が取り扱う情報資源の効率的な利用のために不可欠な組織化は、複雑な手法と規程を持っている。実際に図書館で利用されている主題分類法の具体的内容を学び、組織化作業の演習を通して、実務に必要な知識と技能を習得することを目的とする。</p> <p>「情報資源組織論」で身につけた知識を実践に結びつけ、必要な知識と技能を習得する。主に、日本国内における和図書を対象とする目録作成のうち、分類・件名作業、ローカル情報の付与等の一連の情報資源の組織化作業の基本的内容を体験し、自力での目録データ作成が可能な知識と技能を身につけることを目標とする。</p>	
資格関連科目群	情報と著作権	<p>【概要】我々は日常生活の中で、様々な著作物（書籍・音楽・映画・美術品等）に囲まれている。また著作物にはインターネット上で簡単に接することができるものもある。しかし、これらの著作物には、「著作権」があり、無限に利用することはできない。本講義では著作権法を参照しながら、様々な著作物の著作権について学習する。</p> <p>著作権法という法の精神、趣旨を理解し、学生生活および卒業後の生活において著作物の適正な利用ができるようにする。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
資格関連科目群	図書館サービス特論	<p><b>【概要】</b> 図書館は激変する情報環境の中にあつて様々な課題に直面している。その課題のいくつかの事例をとりあげ、「司書専門職」のあり方や図書館の社会における位置づけ、図書館サービスの可能性などを探る。メディアの中に描かれる司書や図書館を通して、一般にもたれている司書や図書館のイメージと、実際の「専門職」としての司書とのギャップや、諸外国との「専門職」に対する認識や雇用実態の差など、事例を通して見ていく。図書館サービスの実践として、実際の図書館展示の企画・立案を行う。 新聞記事やニュースにのぼった図書館について、問題とされたことならについての理解と、自分なりの問題意識を持ち、分析する力を身につける。また、映画やドラマの中に描かれている図書館を通じて、国や地域、各時代の社会的、文化的背景と図書館の在り方に対する理解を深める。実際の図書館サービス「図書館展示」の企画・立案とプレゼンテーションを通じて、サービスを受ける「利用者」ではなく、「提供者」側から図書館サービスを理解することをめざす。</p>	
資格関連科目群	ベストセラー研究	<p><b>【概要】</b> 戦後のベストセラーを取り上げ、売れた理由を探る。本のみならず、歌謡曲、ドラマ、映画、ファッションなども取り上げ、多様な角度からこの現象を考えていく。</p> <p><b>【到達目標】</b> 売れる作品のヒミツを探ることで、いかに表現したらよいかを考察する。</p> <p><b>【授業計画】</b> 〈第1回〉ベストセラーとは何か 〈第2回〉1945年～1949年のベストセラー 〈第3回〉1950年代のベストセラー（復興期） 〈第4回〉1950年代のベストセラー（大衆化へ） 〈第5～6回〉1960年代のベストセラー（高度経済成長期） 〈第7～8回〉1970年代のベストセラー（経済大国・不確実性の時代） 〈第9～10回〉1980年代のベストセラー（浮遊する感覚・バブル期） 〈第11～12回〉1990年代のベストセラー（変動する世界・世紀末の日本） 〈第13～14回〉2000年以降のベストセラー（混迷の21世紀へ） 〈第15回〉まとめ</p> <p><b>【授業方法】</b> 毎回プリントを配布。それに従い進める。</p>	
資格関連科目群	図書・図書館史	<p><b>【概要】</b> 書物と、それを収集・整理・保管・提供する図書館は人類の知的活動にとって必要不可欠な存在である。その書物と図書館の歴史を時代や社会の背景をも含めて概説する。本講義では世界の図書館の変遷を中心に、近代的な図書館思想が成立して行く過程をたどりながら、現代の図書館が持つ思想や性格について理解を深める。さらに図書館の電子化、電子書籍のインパクトについて考えていく。 図書館と図書館であつた資料について、史的観点からの理解を深める。世界の図書館に精通する。</p>	

(注)

1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。

2 私立の大学若しくは高等専門学校に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。